

介護保険制度導入前後における家族介護者の生活構造の特徴 オンサイト施設を利用した公的統計マイクロデータの利活用

田上 紀代美（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科）

山内 慶太（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科）

社会的背景

<1980年～1990年代>

①高齡化の進行

- 高齡化が急速に進行
- 要介護高齢者も増加

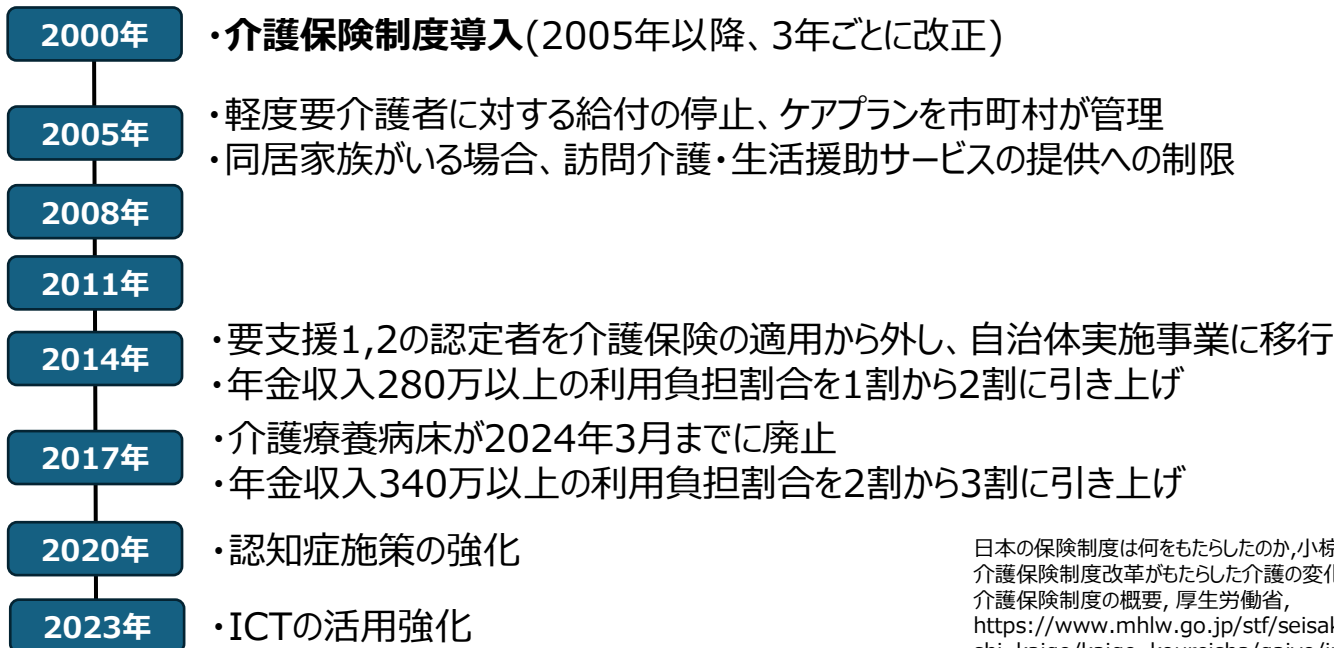
②家族構成の変化

- 少子化、女性の社会進出
- 介護形態の変化

③介護問題の顕在化

- 主介護者の介護負担が集中
- 介護離職者の増加
- 身体的・精神的負担から介護疲れ

介護ニーズの増大



日本の保険制度は何をもたらしたのか,小椋正立他, 2012
介護保険制度改革がもたらした介護の変化,鈴木奈穂美, 2020
介護保険制度の概要, 厚生労働省,
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/huku-shi_kaigo/kaigo_koureisha/gaiyo/index.html

目的

2000年の介護保険制度導入において、家族介護者に期待された「介護負担の軽減」「仕事との両立」「生活の質の向上」について、家族介護者の生活時間構造の観点から検討した研究、特に大規模データを用いて統計的手法によって定量的に分析した研究は少ない。



介護保険制度施行前後における家族介護者の生活パターンから、
生活構造の特徴を明らかにする

着目点

- ✓ **介護時間**の推移
- ✓ **介護支援**（介護サービス）の利用
- ✓ **就労時間**の推移
- ✓ **他の生活時間**（睡眠・食事・余暇）の推移

社会生活基本調査とは

1. 社会生活基本調査

- ・総務省統計局によって5年ごとに行われている**基幹統計調査**
統計法に基づいて行われる調査で、調査対象となった場合、回答する義務が生じる。
- ・10月の決められた連続する2日間を調査日とする（平日・土日問わない）。

2. 目的・結果

【目的】生活時間配分や余暇時間の活動状況から、国民の社会生活の実態を明らかにする

【結果】・ワーク・ライフ・バランスの推進
・少子高齢社会対策 等



行政施策の
基礎資料

3. 調査の特徴（調査票A）

【生活時間編】15分単位に「生活行動」と「だれといたか」についての情報

【生活行動編】過去1年間の「学習・自己啓発・訓練」「趣味・娯楽」「スポーツ」
「ボランティア活動・社会参加活動」「旅行・行楽」に関する情報

オンサイト施設とは

公的統計マイクロデータ（個票データ）

- 統計法の改正により、調査研究を目的として、利用が認められた、国の基幹統計。
- 国勢調査、社会生活基本調査、人口動態統計、国民生活基礎調査等の集計前の個票データを指す。
- マイクロデータを用いることで、より自由で多様な分析を行うことが可能。

- ・研究内容の新たな発見・発展への期待
- ・探索的、創造的な研究が可能

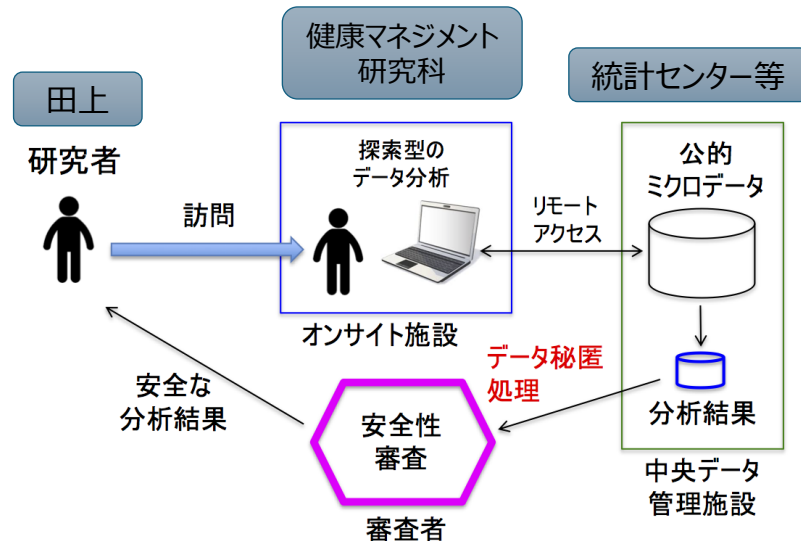
基幹統計：国の行政機関が作成する統計のうち
総務大臣が指定する特に重要な統計。

オンサイト施設

- 統計センターと連携して**情報セキュリティが確保された施設**。
- 許可された研究者のみが入室できる。
- オンサイト施設内に設置されたモニターを使用し、遠隔操作によってデータを利用する。
- **オンサイト施設内には監視カメラが設置**されており、電子機器などの私物は持ち込めない。

公的統計のオンサイト利用

- 分析結果は、安全性の確認のための審査を経て、後日提供される（数週間～数か月）。



研究方法

【データ】 1996年 2006年 2016年 2021年 社会生活基本調査
調査票A (オンサイト施設を利用したマイクロデータ)

【分析対象者】 「25歳以上」「介護・看護時間が15分以上」と回答した人を抽出

| | | |
|-------|--------|----------|
| 1996年 | 9722名 | |
| 2006年 | 9080名 | |
| 2016年 | 11479名 | |
| 2021年 | 8476名 | 計 38757名 |

【分析手法】 潜在クラス分析 Latent GOLD 6.0

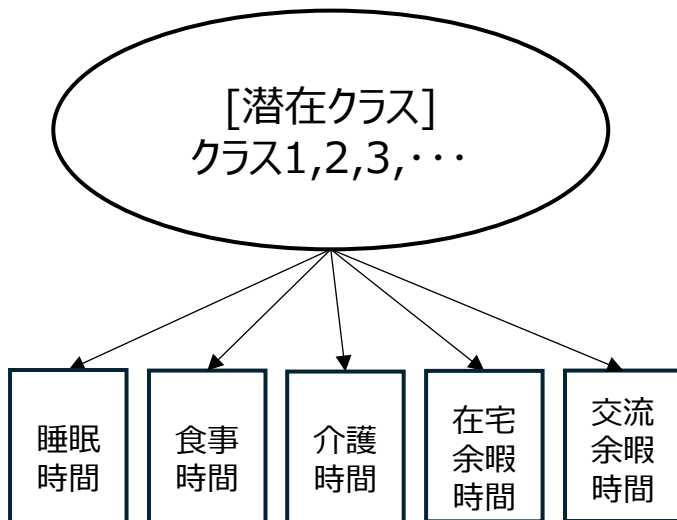
【変数】 行動の種類20項目から、以下の5項目を変数とした。
在宅余暇、交流余暇は複数の項目をまとめた。

- 「睡眠」
- 「食事」
- 「介護・看護」
- 「在宅余暇」・・・「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」「休養・くつろぎ」
- 「交流余暇」・・・「学習・研究」「趣味・娯楽」「スポーツ」「ボランティア・社会参加活動」
「交際・付き合い」

「通勤・通学」「仕事」「家事」「買い物」「身の回りの用事」「学業」「育児」「移動」「受診・療養」「その他」

【水準】 2～4水準 (四分位数により決定)

分析方法



<潜在クラス分析>

- 観測された複数の顕在変数の背後に、観測されない潜在変数（潜在クラス）が存在すると仮定する確率モデル。
- 母集団が複数の異質な潜在クラスから構成されており、回答者がいずれかの潜在クラスに属するという前提に基づく。

<特徴>

- 潜在クラスのサイズを確率で表す。
- 分析対象者の各クラスへの振り分けを、**所属確率として算出する。**
 - 所属するクラスは1つに決まらないので、多様な解釈が可能
- 所属確率が最も高いクラスに紐づけられる。

マーケティングのデータ分析, 岡太彬訓他, 朝倉書店, 2010 から引用

結果

短時間介護

長時間介護

条件付き応答確率 (各クラスに所属する分析対象者が、変数とした項目の時間区分に回答する確率)

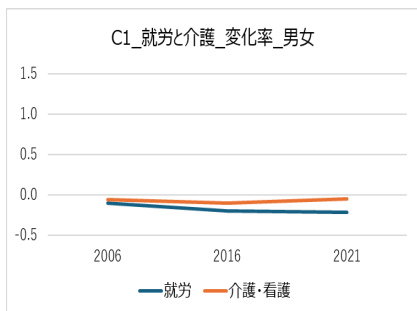
| クラスサイズ | | 45.2% | 12.0% | 11.6% | 10.9% | 9.5% | 8.3% | 1.4% | 1.1% |
|----------|--------------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|
| 項目 | 水準 (時間区分) | クラス1 | クラス2 | クラス3 | クラス4 | クラス5 | クラス6 | クラス7 | クラス8 |
| 睡眠 | 390分未満 | 0.17 | 0.36 | 0.29 | 0.09 | 0.18 | 0.06 | 0.17 | 1 |
| | 390分以上450分未満 | 0.27 | 0.33 | 0.32 | 0.21 | 0.28 | 0.17 | 0.28 | 0 |
| | 450分以上510分未満 | 0.28 | 0.20 | 0.23 | 0.30 | 0.28 | 0.29 | 0.28 | 0 |
| | 510分以上 | 0.28 | 0.11 | 0.16 | 0.40 | 0.26 | 0.47 | 0.27 | 0 |
| 食事 | 75分未満 | 0.10 | 0.34 | 0.54 | 0.12 | 0.25 | 0.13 | 0.98 | 0.44 |
| | 75分以上90分未満 | 0.08 | 0.15 | 0.16 | 0.09 | 0.13 | 0.10 | 0.01 | 0.16 |
| | 90分以上120分未満 | 0.34 | 0.30 | 0.20 | 0.34 | 0.33 | 0.34 | 0 | 0.25 |
| | 120分以上 | 0.48 | 0.21 | 0.10 | 0.45 | 0.29 | 0.42 | 0 | 0.15 |
| 介護・看護 | 45分以上 | 0.25 | 0 | 0.43 | 0 | 0.49 | 0.22 | 0 | 0 |
| | 45分以上90分未満 | 0.35 | 0.03 | 0.35 | 0 | 0.34 | 0.34 | 0.01 | 0 |
| | 90分以上165分未満 | 0.30 | 0.24 | 0.18 | 0.07 | 0.14 | 0.32 | 0.14 | 0.08 |
| | 165分以上 | 0.10 | 0.73 | 0.03 | 0.93 | 0.02 | 0.12 | 0.86 | 0.92 |
| 在宅余暇活動 | 105分未満 | 0.20 | 0.20 | 0.39 | 0.40 | 0.01 | 0 | 1 | 0.94 |
| | 105分以上195分未満 | 0.30 | 0.30 | 0.34 | 0.34 | 0.05 | 0.01 | 0 | 0.05 |
| | 195分以上315分未満 | 0.32 | 0.32 | 0.21 | 0.20 | 0.26 | 0.13 | 0 | 0 |
| | 315分以上 | 0.17 | 0.18 | 0.06 | 0.06 | 0.69 | 0.86 | 0 | 0 |
| 交流余暇活動 | 0分=なし | 0.50 | 0.63 | 0.54 | 0.89 | 0.32 | 1 | 0.85 | 0.74 |
| | 15分以上=あり | 0.50 | 0.37 | 0.46 | 0.11 | 0.68 | 0 | 0.15 | 0.26 |
| クラスの特徴付け | | バランス型 | 介護優先型 | 生活制約型 | 介護負荷型 | 余暇重視型 | 孤立リスク型 | 介護中心型 | 介護過重型 |

結果 就労、介護・看護時間の推移

1996年を基準年とする

就労時間減少

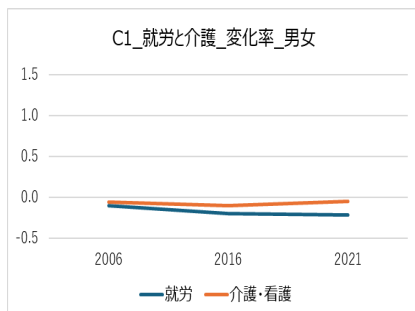
クラス1
バランス型



(分)

| C1 | 1996 | 2006 | 2016 | 2021 |
|-------|------|------|------|------|
| 就労 | 135 | 121 | 109 | 106 |
| 介護・看護 | 82 | 77 | 74 | 78 |

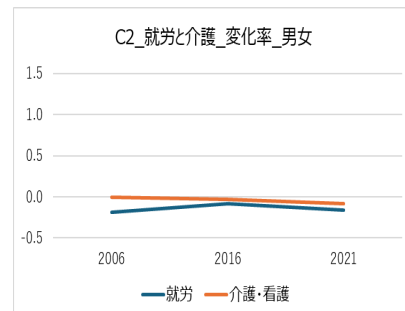
クラス6
孤立リスク型



(分)

| C6 | 1996 | 2006 | 2016 | 2021 |
|-------|------|------|------|------|
| 就労 | 24 | 19 | 19 | 16 |
| 介護・看護 | 100 | 93 | 86 | 96 |

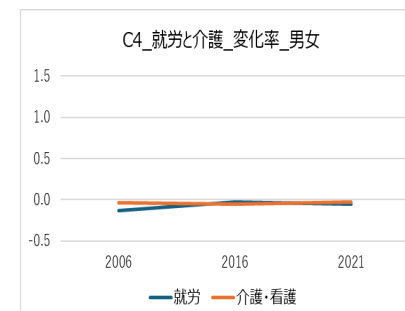
クラス2
介護優先型



(分)

| C2 | 1996 | 2006 | 2016 | 2021 |
|-------|------|------|------|------|
| 就労 | 60 | 49 | 56 | 51 |
| 介護・看護 | 280 | 279 | 273 | 257 |

クラス4
介護負荷型

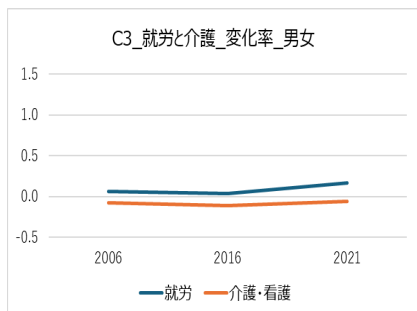


(分)

| C4 | 1996 | 2006 | 2016 | 2021 |
|-------|------|------|------|------|
| 就労 | 43 | 37 | 41 | 40 |
| 介護・看護 | 353 | 339 | 334 | 344 |

短時間介護

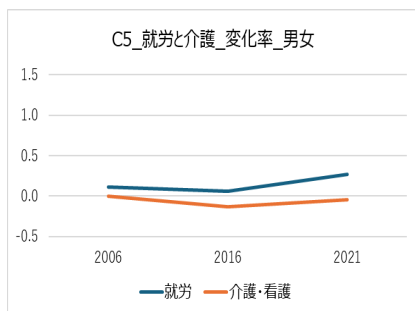
クラス3
生活制約型



(分)

| C3 | 1996 | 2006 | 2016 | 2021 |
|-------|------|------|------|------|
| 就労 | 279 | 295 | 290 | 326 |
| 介護・看護 | 55 | 51 | 49 | 52 |

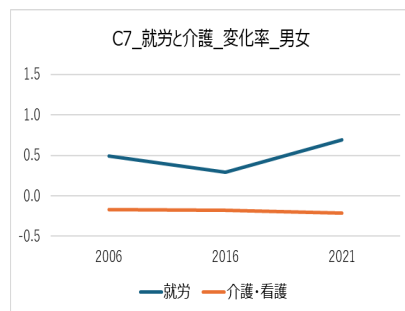
クラス5
余暇重視型



(分)

| C5 | 1996 | 2006 | 2016 | 2021 |
|-------|------|------|------|------|
| 就労 | 32 | 36 | 34 | 41 |
| 介護・看護 | 42 | 42 | 37 | 40 |

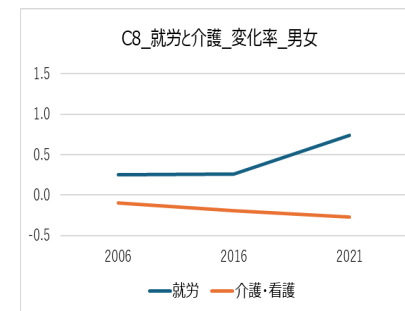
クラス7
介護中心型



(分)

| C7 | 1996 | 2006 | 2016 | 2021 |
|-------|------|------|------|------|
| 就労 | 73 | 109 | 94 | 124 |
| 介護・看護 | 478 | 398 | 393 | 377 |

クラス8
介護過重型



(分)

| C8 | 1996 | 2006 | 2016 | 2021 |
|-------|------|------|------|------|
| 就労 | 115 | 144 | 145 | 201 |
| 介護・看護 | 561 | 508 | 453 | 408 |

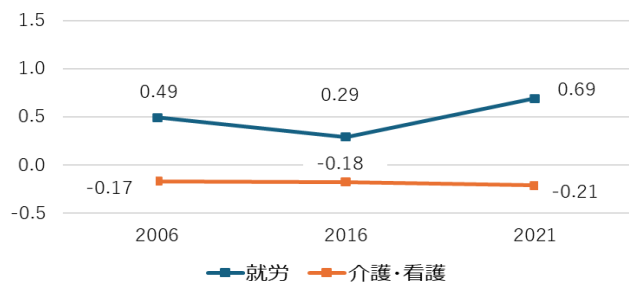
就労時間増加

結果 クラス別 生活時間の推移

1996年を基準年とする

クラス7
介護中心型

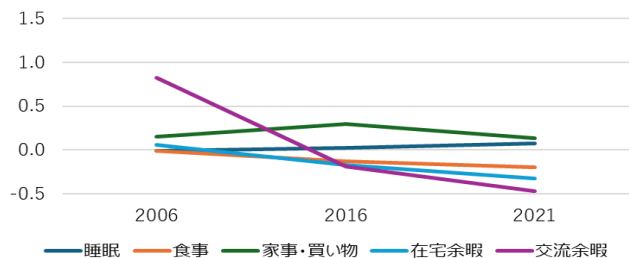
C7_就労と介護_変化率_男女



(分)

| C7 | 1996 | 2006 | 2016 | 2021 |
|-------|------|------|------|------|
| 就労 | 73 | 109 | 94 | 124 |
| 介護・看護 | 478 | 398 | 393 | 377 |

C7_生活時間_変化率_男女

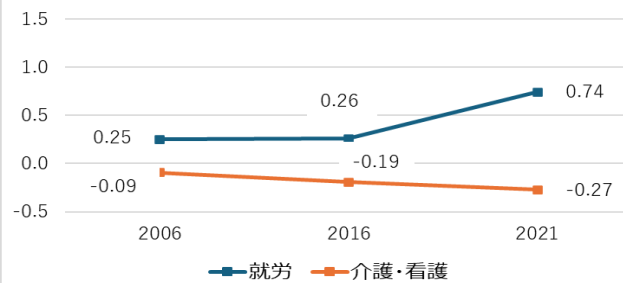


(分)

| C7 | 1996 | 2006 | 2016 | 2021 |
|--------|------|------|------|------|
| 睡眠 | 492 | 486 | 502 | 528 |
| 食事 | 45 | 45 | 39 | 36 |
| 家事・買い物 | 140 | 162 | 182 | 159 |
| 在宅余暇 | 32 | 34 | 27 | 22 |
| 交流余暇 | 21 | 38 | 17 | 11 |

クラス8
介護過重型

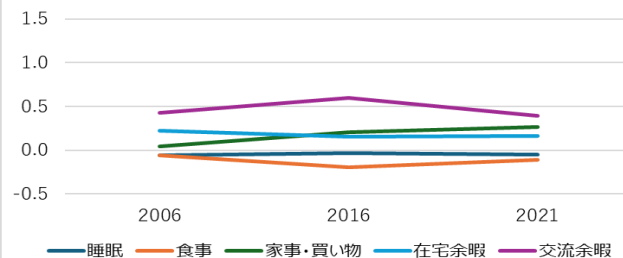
C8_就労と介護_変化率_男女



(分)

| C8 | 1996 | 2006 | 2016 | 2021 |
|-------|------|------|------|------|
| 就労 | 115 | 144 | 145 | 201 |
| 介護・看護 | 561 | 508 | 453 | 408 |

C8_生活時間_変化率_男女



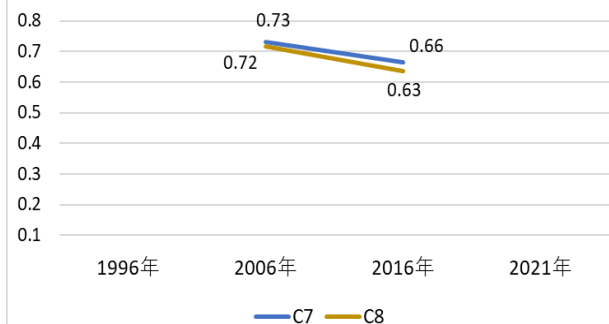
(分)

| C8 | 1996 | 2006 | 2016 | 2021 |
|--------|------|------|------|------|
| 睡眠 | 302 | 284 | 293 | 288 |
| 食事 | 66 | 61 | 53 | 58 |
| 家事・買い物 | 191 | 199 | 230 | 241 |
| 在宅余暇 | 27 | 33 | 31 | 31 |
| 交流余暇 | 26 | 37 | 41 | 36 |

結果 介護支援（介護サービス）の利用

時点別・クラス別の割合

介護支援を受けていない

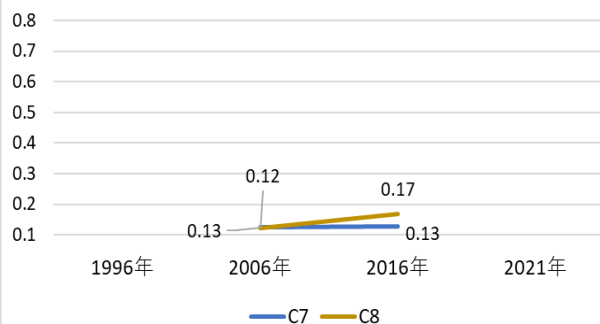


| | 1996年 | 2006年 | 2016年 | 2021年 |
|----|-------|-------|-------|-------|
| C7 | | 0.73 | 0.66 | |
| C8 | | 0.72 | 0.63 | |

介護支援を受けていない人の割合

クラス7（介護中心型）、
クラス8（介護過重型）ともに**減少**

介護支援を受けている_週4日未満

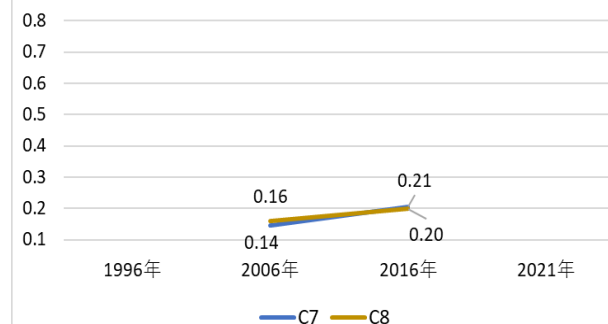


| | 1996年 | 2006年 | 2016年 | 2021年 |
|----|-------|-------|-------|-------|
| C7 | | 0.13 | 0.13 | |
| C8 | | 0.12 | 0.17 | |

週4日未満、介護支援を受けている人の割合

クラス7（介護中心型）は**変化なし**
クラス8（介護過重型）は**増加**

介護支援を受けている_週4日以上



| | 1996年 | 2006年 | 2016年 | 2021年 |
|----|-------|-------|-------|-------|
| C7 | | 0.14 | 0.21 | |
| C8 | | 0.16 | 0.20 | |

週4日以上、介護支援を受けている人の割合

クラス7（介護中心型）、
クラス8（介護過重型）ともに**増加**

考察・結論・今後の課題

<考察>

- 介護支援利用の増加と、介護・看護時間の減少は、家族が担う介護時間の一部が介護支援によって代替されている可能性を示唆する。
- 「介護・看護時間の減少」と「就労時間の増加」が同時点で観察されたことは、介護・看護時間の減少が就労時間の増加と関連している可能性を示唆する。
- 睡眠や食事時間が短いことは、慢性的な睡眠不足や不規則な食生活につながる可能性がある。また、余暇時間が短いことは、他者との交流機会が限られ、社会的孤立のリスクが考えられる。

<結論>

- 介護保険制度導入後、介護サービスの代替的な活用と介護・看護時間の減少、就労時間の増加という関連性が示唆された。
- しかし、睡眠や食事といった生理的活動時間は十分に確保できておらず、余暇時間も短いことから、家族介護者の心身の健康維持と社会的なつながりの確保が課題として浮き彫りとなった。

<今後の課題>

- **要介護者の介護重症度**は調査項目にないため、介護度と介護時間の関連を見ていく必要がある。
- 介護していない人の生活時間の推移と比較検討する必要がある。

オンサイト施設の利用

2024年3月29日最終更新
(最終確認：2024年11月9日)

■ オンサイト施設一覧

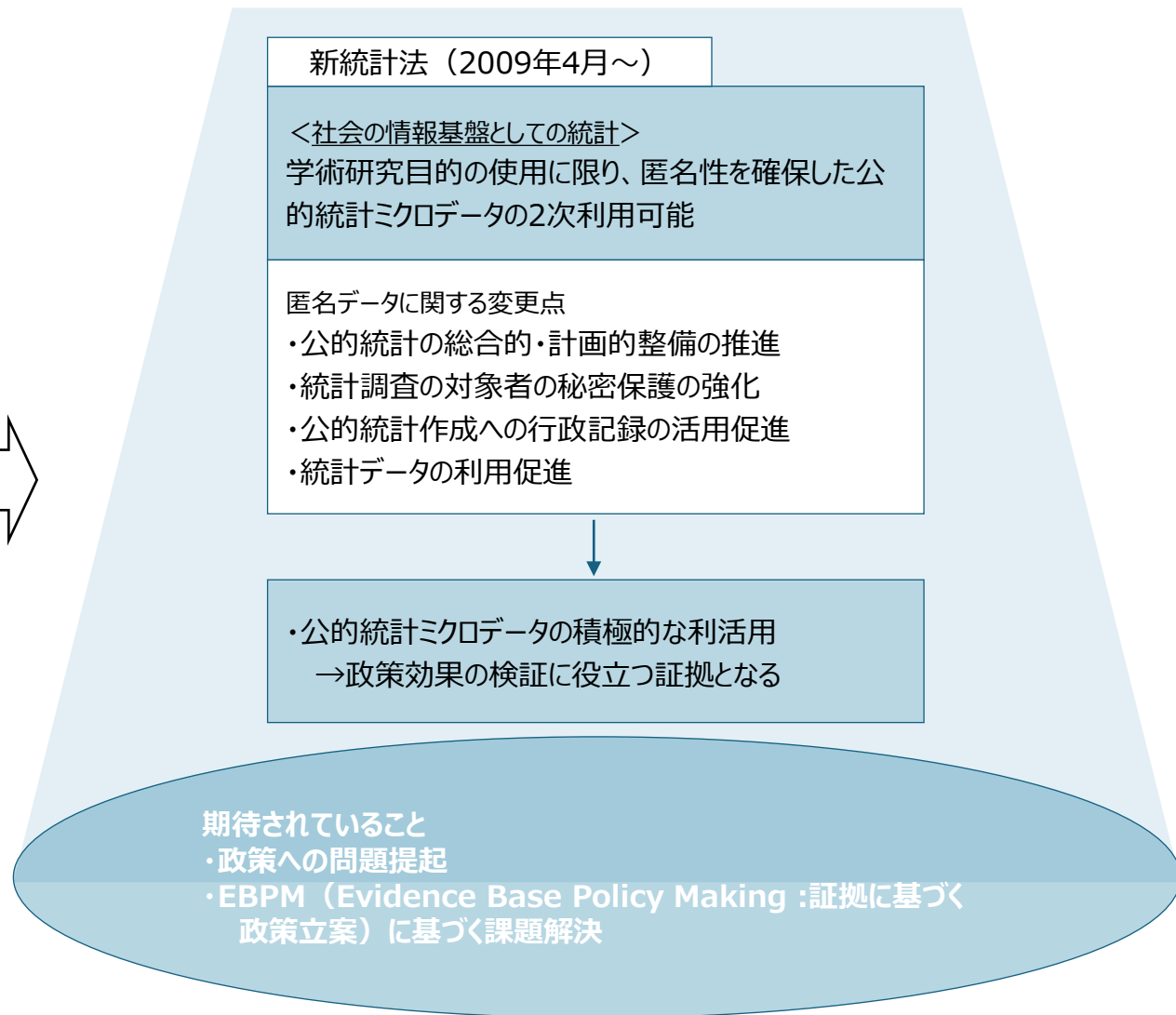
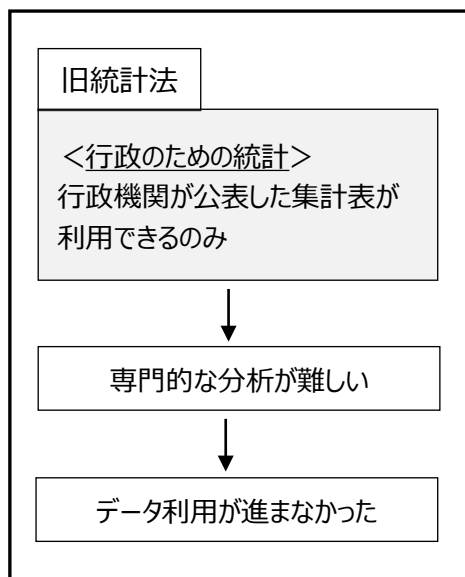
【設置場所】

- ・19大学
- ・統計センター
- ・情報・システム研究機構
- ・統計データ利活用センター



資料 公的統計マイクロデータの利活用

- 2009年5月～新統計法改正
⇒匿名データの2次利用が可能



先行研究

① 中間の年齢層の働き方－労働時間と介護時間の動向を中心に, 黒田祥子, 2014

2001年、2011年の社会生活基本調査個票データを用いて、30～50歳の介護を担う正規雇用者を対象に、労働時間や生活時間配分が10年間でどのように推移したかを集計により分析。その結果、介護者数は増加しているが、介護時間は減少していることから、介護保険制度導入による社会的な支援が機能している可能性を示唆。

② 公的介護保険は家族介護者の介護時間を減少させたのか？－社会生活基本調査匿名データを用いた検証－, 菅万里, 梶谷真也, 2014

1996年、2001年、2006年の社会生活基本調査のマイクロデータを用いて、自宅内で家族を介護する家族介護者を対象として、介護保険が介護者の介護時間に与えた影響について差の差分析を行った。その結果、高学歴の女性グループにおいて、介護保険導入が介護時間の減少につながったことが確認された。但し、介護時間の減少が労働時間の増加につながることは示されなかった。

③ 介護サービスは女性の介護時間を減少させるか－都道府県別パネルデータを用いた推定－, 楠山大暁, 2022

2001年、2006年、2011年、2016年の社会生活基本調査（集計データ）を用いて、介護サービスのうち居宅サービスの給付が女性の介護時間を減少させているかを同時方程式モデルにより検証した。その結果、居宅サービスの利用量や居宅サービスに対する自己負担額の増加が介護時間の減少につながる可能性を示唆。



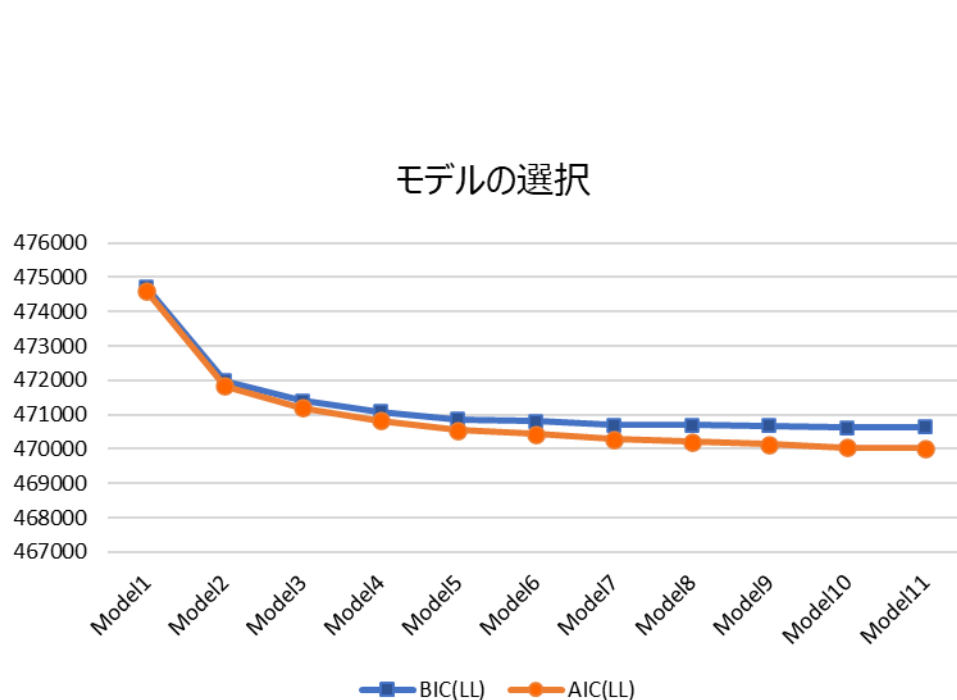
・介護保険制度導入が介護時間の減少につながり、政策的効果が見られたとする研究。



明らかでない点

- ・就労時間の増加との関連
- ・女性の介護と就労の関連

資料 モデルの選択 (クラス数の決定)



| | BIC(LL) | AIC(LL) |
|---------|----------|----------|
| Model1 | 474711.7 | 474600.3 |
| Model2 | 471992.3 | 471829.5 |
| Model3 | 471408.9 | 471194.8 |
| Model4 | 471092.4 | 470826.8 |
| Model5 | 470872.4 | 470555.5 |
| Model6 | 470804.5 | 470436.2 |
| Model7 | 470700.8 | 470281.1 |
| Model8 | 470689.2 | 470218.1 |
| Model9 | 470670.2 | 470147.7 |
| Model10 | 470623.8 | 470049.9 |
| Model11 | 470650.9 | 470025.6 |

AIC, BIC基準では、値が小さいほど当てはまりが良いとされる。

AIC基準では、減少継続

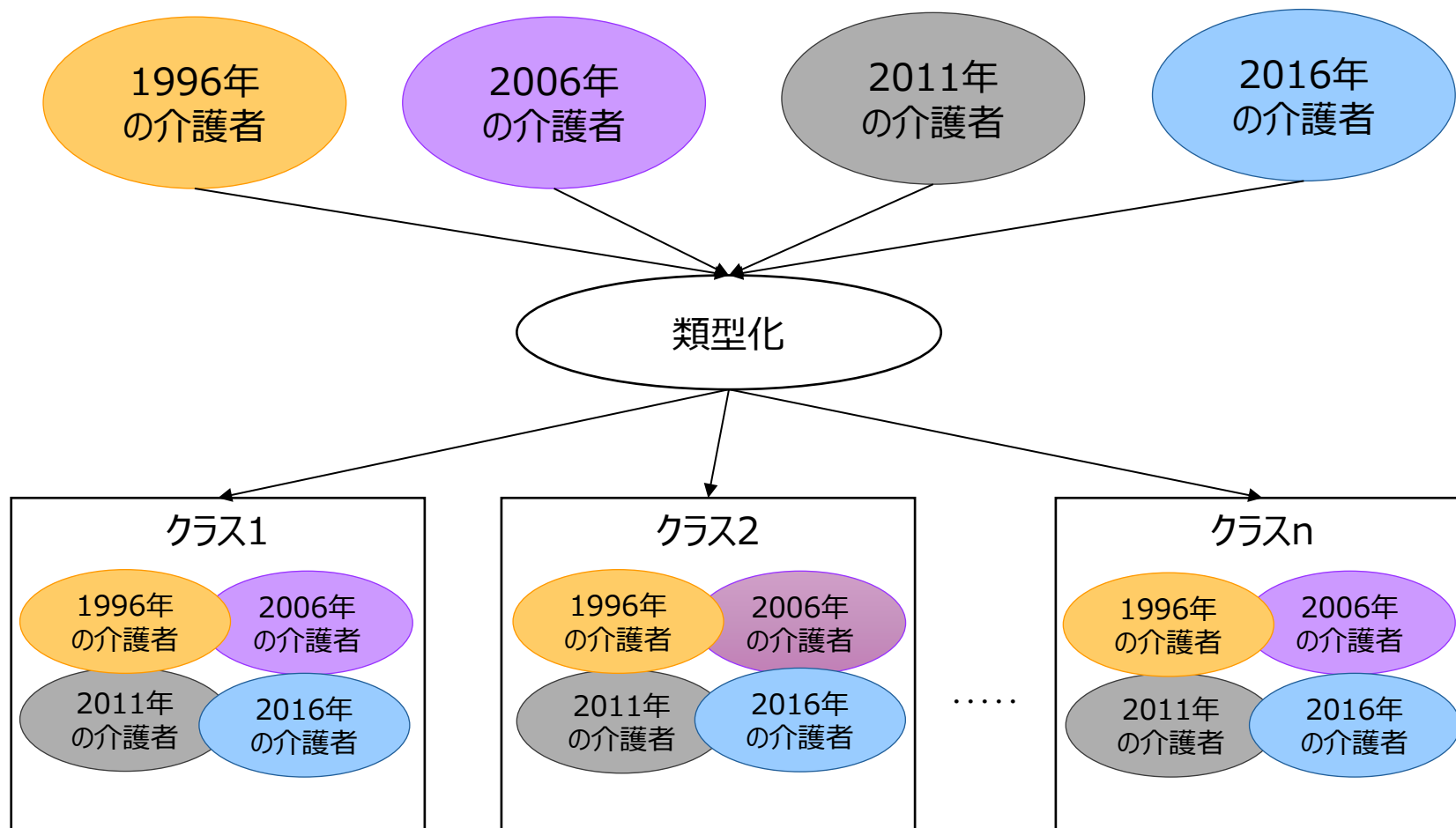
モデル7から減少幅が小さくなる

BIC基準では、モデル10で最小

モデル7から減少幅が小さくなる

→解釈可能性の観点からモデル8を選択

資料 潜在クラス分析 多時点データ



資料 潜在クラス分析と因子分析・クラスター分析

潜在クラス分析と因子分析

共通点：①観測された変数の背後にある潜在的な構造を見つけ出す手法

| 相違点 | 潜在クラス分析 | 因子分析 |
|-----|------------------------|------------------------|
| | 質的データ | 量的データ |
| | 対象者をいくつかの異質な集団（クラス）に分類 | 観測変数間の相関関係を説明する共通因子を抽出 |

潜在クラス分析とクラスター分析

共通点：①類似したデータ同士をグループに分類する手法
②似た特徴を持つ対象をまとめる

| 相違点 | 潜在クラス分析 | クラスター分析 |
|-----|-------------------------|--------------------|
| | 質的データ | 量的データ |
| | 確率モデルに基づいて分類 | データ間の距離に基づくアプローチ |
| | 個人がどのクラスに所属するかを、確率として分類 | 各対象を一つのクラスターに完全に分類 |
| | 各クラスに属する確率を計算 | 最適なクラスター数の決定が主観的 |

資料 基礎集計

| | | 1996年 | 2006年 | 2016年 | 2021年 | 性別総数 |
|-------|----|-------|-------|-------|-------|-------|
| 分析対象者 | 男性 | 2071 | 2253 | 3029 | 2455 | 9808 |
| | 女性 | 7651 | 6827 | 8450 | 6021 | 28949 |
| 時点別総数 | | 9722 | 9080 | 11479 | 8476 | 38757 |

各時点における年齢層別の割合

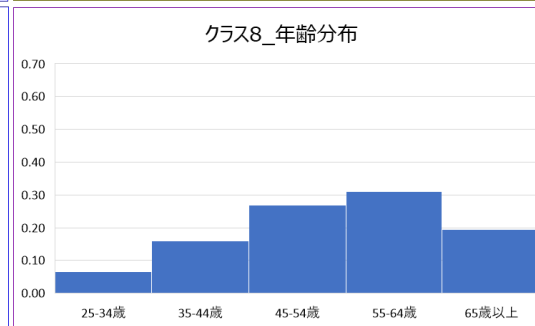
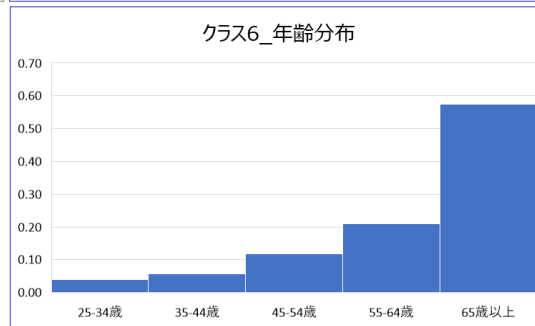
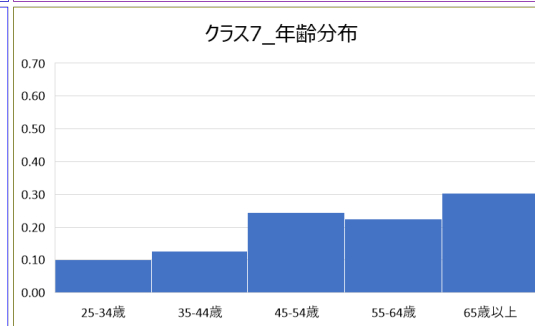
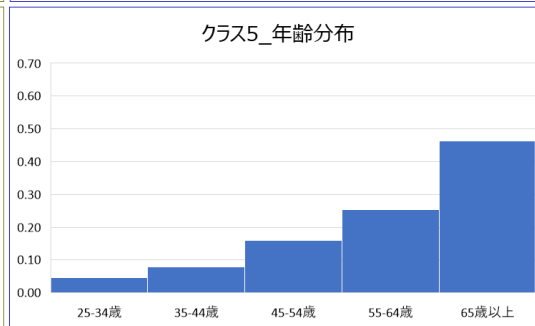
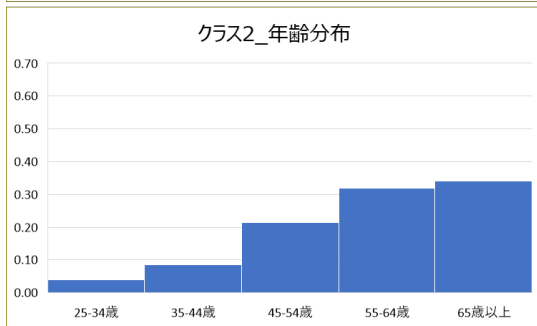
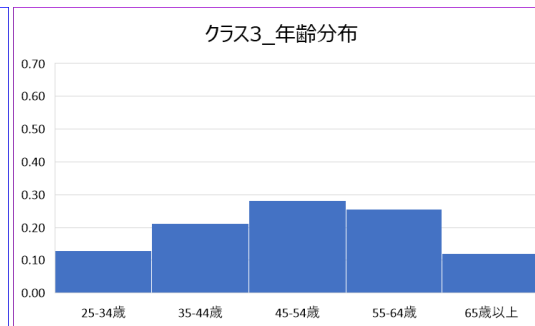
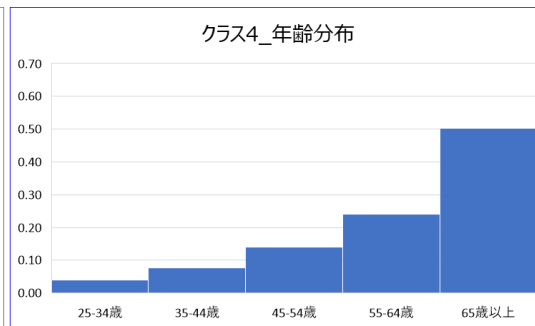
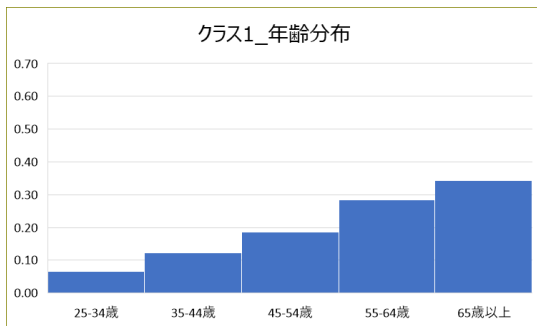
| 年齢層別 | 男性 (%) | | | | 女性 (%) | | | |
|------------|--------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 1996年 | 2006年 | 2016年 | 2021年 | 1996年 | 2006年 | 2016年 | 2021年 |
| 25歳以上35歳未満 | 9.3 | 3.8 | 5.1 | 3.5 | 10.5 | 6.5 | 5.3 | 3.1 |
| 35歳以上45歳未満 | 14.2 | 9.1 | 8.6 | 7.2 | 15.8 | 11.9 | 10.6 | 8.1 |
| 45歳以上55歳未満 | 20.8 | 15.9 | 11.7 | 14.8 | 25.4 | 20.3 | 17.2 | 14.5 |
| 55歳以上65歳未満 | 20.8 | 30.4 | 25.9 | 24.7 | 23.4 | 29.5 | 28.3 | 28.9 |
| 65歳以上75歳未満 | 21.1 | 22.2 | 26.6 | 26.9 | 18.0 | 19.7 | 22.9 | 26.3 |
| 75歳以上84歳未満 | 12.0 | 14.8 | 16.4 | 16.5 | 6.3 | 10.4 | 11.9 | 14.9 |
| 85歳以上 | 1.8 | 3.9 | 5.8 | 6.4 | 0.6 | 1.6 | 3.8 | 4.1 |

資料 クラス別年齢分布

中年期 (45-64歳)介護
約半数が中年期にあたる

高齢期 (65歳以上)介護
約半数が高齢期にあたる

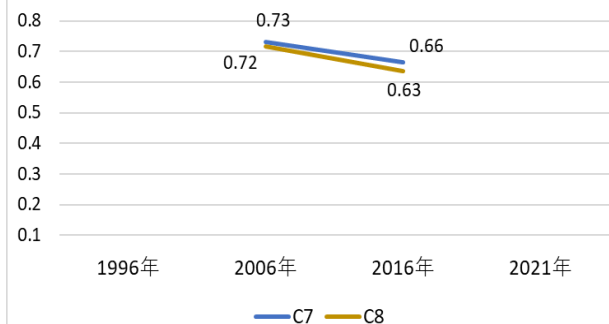
壮年期 (25-44歳)介護
各クラス内の20-30%にあたる



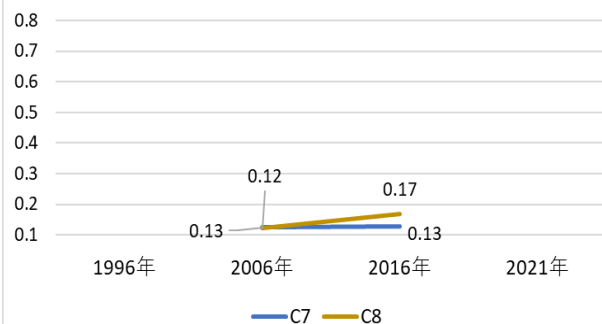
資料 介護支援（介護サービス）の利用

時点別・クラス別の割合

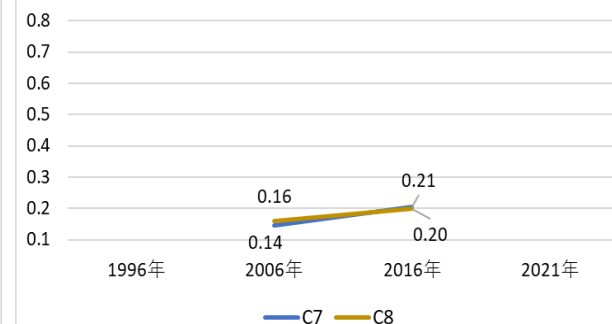
介護支援を受けていない



介護支援を受けている_週4日未満



介護支援を受けている_週4日以上



| | 1996年 | 2006年 | 2016年 | 2021年 |
|----|-------|-------|-------|-------|
| C7 | | 0.73 | 0.66 | |
| C8 | | 0.72 | 0.63 | |

| | 1996年 | 2006年 | 2016年 | 2021年 |
|----|-------|-------|-------|-------|
| C7 | | 0.13 | 0.13 | |
| C8 | | 0.12 | 0.17 | |

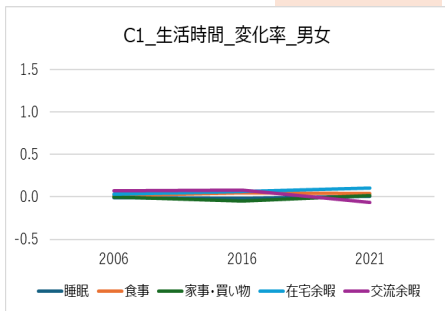
| | 1996年 | 2006年 | 2016年 | 2021年 |
|----|-------|-------|-------|-------|
| C7 | | 0.14 | 0.21 | |
| C8 | | 0.16 | 0.20 | |

| | 1996 | 2006 | 2016 | 2021 | (人) クラス数 |
|--------------|------|------|------|------|-------------|
| C7 | 212 | 152 | 194 | 151 | 709 |
| 受けていない | | 111 | 129 | | |
| 週に4日未満、受けている | | 19 | 25 | | |
| 週に4日以上、受けている | | 22 | 40 | | |
| C8 | 173 | 138 | 197 | 114 | 622 |
| 受けていない | | 99 | 125 | | |
| 週に4日未満、受けている | | 17 | 33 | | |
| 週に4日以上、受けている | | 22 | 39 | | |

資料 クラス別 生活時間の推移 (就労、介護以外)

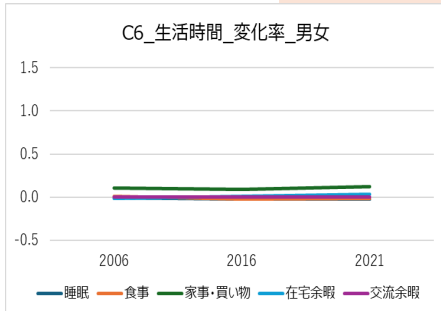
1996年を基準年とする

クラス1
バランス型
平均介護時間
78分



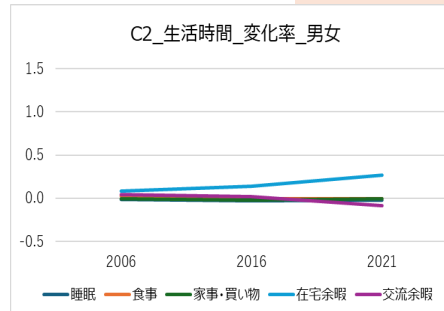
| | 1996 | 2006 | 2016 | 2021 |
|--------|------|------|------|------|
| 睡眠 | 457 | 454 | 451 | 460 |
| 食事 | 116 | 117 | 121 | 120 |
| 家事・買い物 | 229 | 228 | 219 | 234 |
| 在宅余暇 | 182 | 188 | 192 | 201 |
| 交流余暇 | 81 | 87 | 88 | 76 |

クラス6
孤立リスク型
平均介護時間
93分



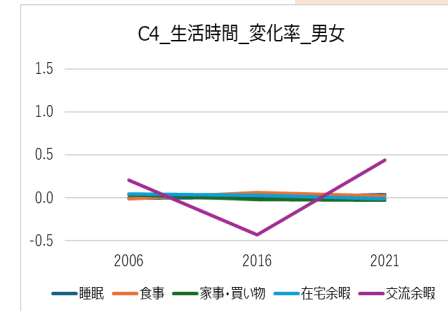
| | 1996 | 2006 | 2016 | 2021 |
|--------|------|------|------|------|
| 睡眠 | 522 | 518 | 512 | 510 |
| 食事 | 108 | 110 | 106 | 107 |
| 家事・買い物 | 139 | 154 | 152 | 155 |
| 在宅余暇 | 444 | 438 | 450 | 460 |
| 交流余暇 | 0 | 0 | 0 | 0 |

クラス2
介護優先型
平均介護時間
273分



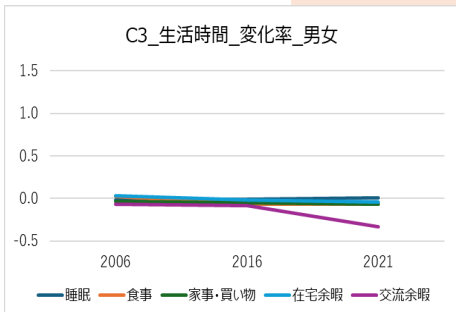
| | 1996 | 2006 | 2016 | 2021 |
|--------|------|------|------|------|
| 睡眠 | 388 | 384 | 377 | 378 |
| 食事 | 77 | 79 | 77 | 77 |
| 家事・買い物 | 220 | 218 | 215 | 218 |
| 在宅余暇 | 214 | 231 | 243 | 272 |
| 交流余暇 | 56 | 58 | 57 | 51 |

クラス4
介護負荷型
平均介護時間
343分



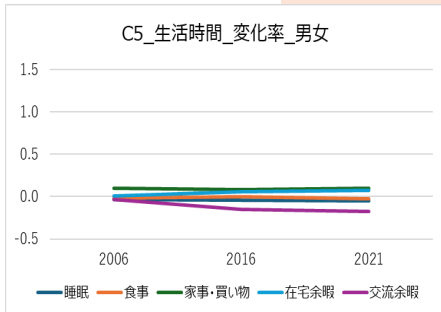
| | 1996 | 2006 | 2016 | 2021 |
|--------|------|------|------|------|
| 睡眠 | 484 | 483 | 488 | 499 |
| 食事 | 120 | 119 | 127 | 122 |
| 家事・買い物 | 182 | 190 | 178 | 177 |
| 在宅余暇 | 120 | 124 | 123 | 118 |
| 交流余暇 | 6 | 8 | 4 | 9 |

クラス3
生活制約型
平均介護時間
51分



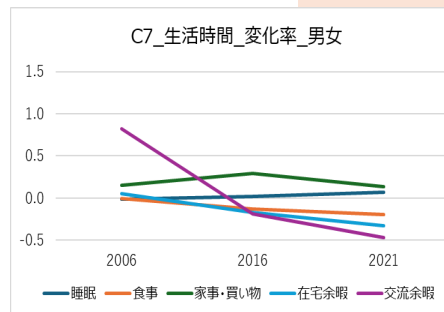
| | 1996 | 2006 | 2016 | 2021 |
|--------|------|------|------|------|
| 睡眠 | 416 | 410 | 413 | 419 |
| 食事 | 51 | 52 | 48 | 48 |
| 家事・買い物 | 220 | 212 | 208 | 206 |
| 在宅余暇 | 114 | 117 | 111 | 109 |
| 交流余暇 | 112 | 105 | 103 | 75 |

クラス5
余暇重視型
平均介護時間
40分



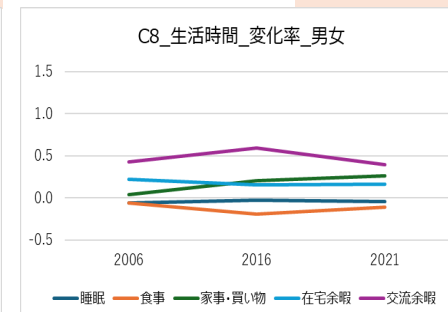
| | 1996 | 2006 | 2016 | 2021 |
|--------|------|------|------|------|
| 睡眠 | 454 | 441 | 436 | 430 |
| 食事 | 85 | 83 | 84 | 83 |
| 家事・買い物 | 159 | 174 | 172 | 174 |
| 在宅余暇 | 414 | 415 | 438 | 443 |
| 交流余暇 | 128 | 124 | 109 | 106 |

クラス7
介護中心型
平均介護時間
416分



| | 1996 | 2006 | 2016 | 2021 |
|--------|------|------|------|------|
| 睡眠 | 492 | 486 | 502 | 528 |
| 食事 | 45 | 45 | 39 | 36 |
| 家事・買い物 | 140 | 162 | 182 | 159 |
| 在宅余暇 | 32 | 34 | 27 | 22 |
| 交流余暇 | 21 | 38 | 17 | 11 |

クラス8
介護過重型
平均介護時間
487分



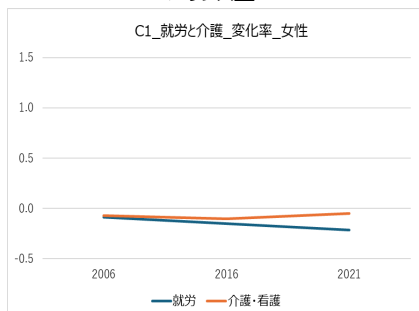
| | 1996 | 2006 | 2016 | 2021 |
|--------|------|------|------|------|
| 睡眠 | 302 | 284 | 293 | 288 |
| 食事 | 66 | 61 | 53 | 58 |
| 家事・買い物 | 191 | 199 | 230 | 241 |
| 在宅余暇 | 27 | 33 | 31 | 31 |
| 交流余暇 | 26 | 37 | 41 | 36 |

資料 就労、介護・看護時間の推移（女性）

1996年を基準年とする

就労時間減少

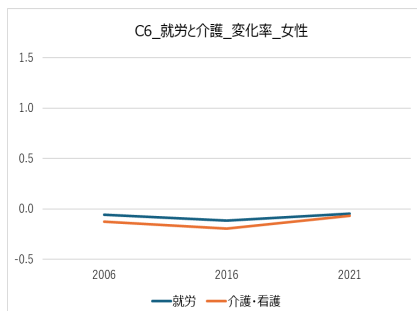
クラス1
バランス型



(分)

| C1 | 1996 | 2006 | 2016 | 2021 |
|-------|------|------|------|------|
| 就労 | 116 | 105 | 98 | 91 |
| 介護・看護 | 82 | 76 | 73 | 78 |

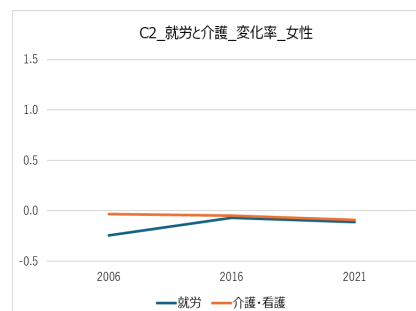
クラス6
孤立リスク型



(分)

| C6 | 1996 | 2006 | 2016 | 2021 |
|-------|------|------|------|------|
| 就労 | 16 | 15 | 14 | 15 |
| 介護・看護 | 98 | 85 | 78 | 91 |

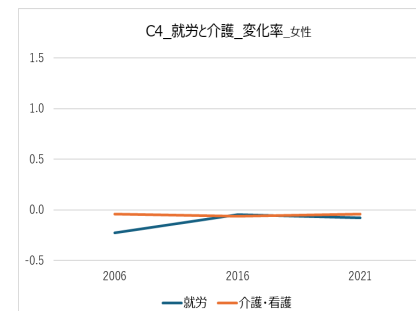
クラス2
介護優先型



(分)

| C2 | 1996 | 2006 | 2016 | 2021 |
|-------|------|------|------|------|
| 就労 | 56 | 43 | 53 | 50 |
| 介護・看護 | 280 | 270 | 266 | 255 |

クラス4
介護負荷型

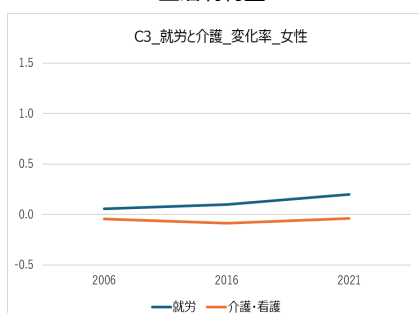


(分)

| C4 | 1996 | 2006 | 2016 | 2021 |
|-------|------|------|------|------|
| 就労 | 39 | 31 | 38 | 36 |
| 介護・看護 | 348 | 333 | 327 | 335 |

短時間介護

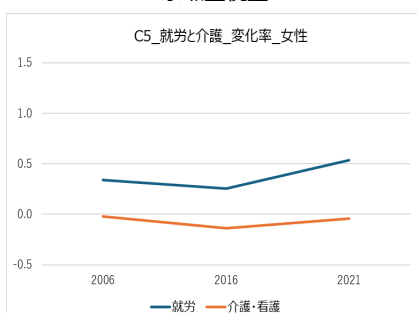
クラス3
生活制約型



(分)

| C3 | 1996 | 2006 | 2016 | 2021 |
|-------|------|------|------|------|
| 就労 | 247 | 260 | 272 | 295 |
| 介護・看護 | 55 | 53 | 51 | 53 |

クラス5
余暇重視型

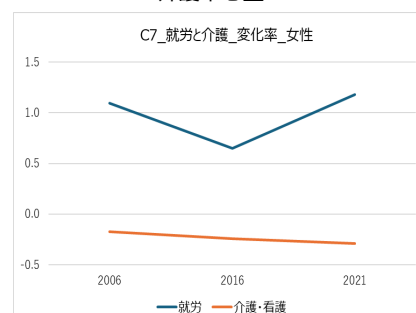


(分)

| C5 | 1996 | 2006 | 2016 | 2021 |
|-------|------|------|------|------|
| 就労 | 25 | 33 | 31 | 38 |
| 介護・看護 | 43 | 42 | 37 | 41 |

長時間介護

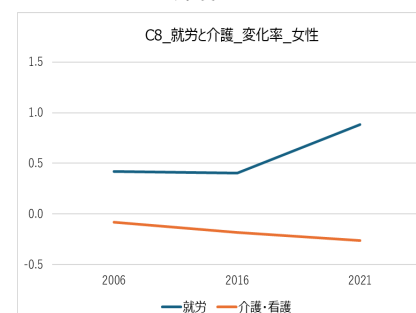
クラス7
介護中心型



(分)

| C7 | 1996 | 2006 | 2016 | 2021 |
|-------|------|------|------|------|
| 就労 | 51 | 107 | 84 | 111 |
| 介護・看護 | 489 | 405 | 371 | 347 |

クラス8
介護過重型



(分)

| C8 | 1996 | 2006 | 2016 | 2021 |
|-------|------|------|------|------|
| 就労 | 89 | 127 | 125 | 168 |
| 介護・看護 | 552 | 508 | 452 | 408 |

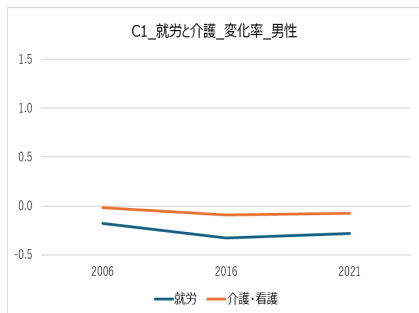
就労時間増加

資料 就労、介護・看護時間の推移（男性）

就労時間減少

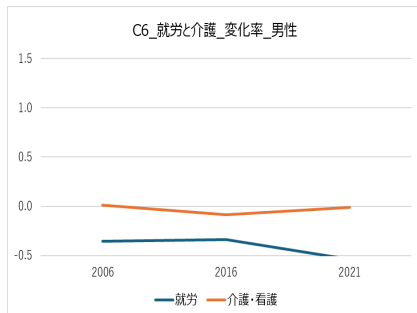
1996年を基準年とする

クラス1
バランス型



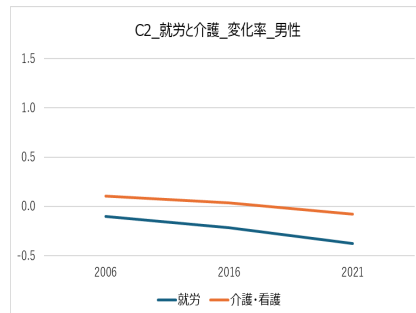
(分)

クラス6
孤立リスク型



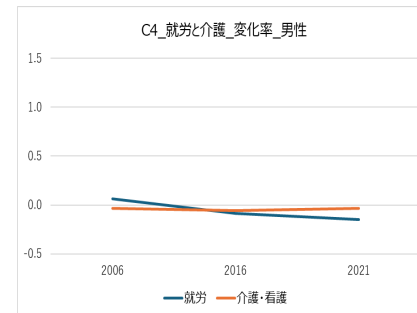
(分)

クラス2
介護優先型



(分)

クラス4
介護負荷型



(分)

| C1 | 1996 | 2006 | 2016 | 2021 |
|-------|------|------|------|------|
| 就労 | 211 | 174 | 142 | 151 |
| 介護・看護 | 84 | 83 | 76 | 78 |

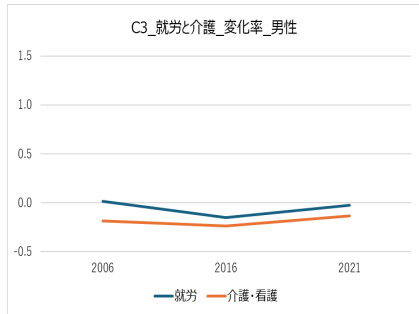
| C6 | 1996 | 2006 | 2016 | 2021 |
|-------|------|------|------|------|
| 就労 | 39 | 25 | 25 | 18 |
| 介護・看護 | 106 | 107 | 97 | 104 |

| C2 | 1996 | 2006 | 2016 | 2021 |
|-------|------|------|------|------|
| 就労 | 84 | 76 | 66 | 52 |
| 介護・看護 | 285 | 315 | 295 | 262 |

| C4 | 1996 | 2006 | 2016 | 2021 |
|-------|------|------|------|------|
| 就労 | 58 | 62 | 53 | 50 |
| 介護・看護 | 377 | 363 | 354 | 365 |

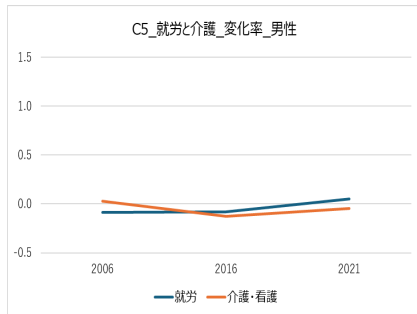
短時間介護

クラス3
生活制約型



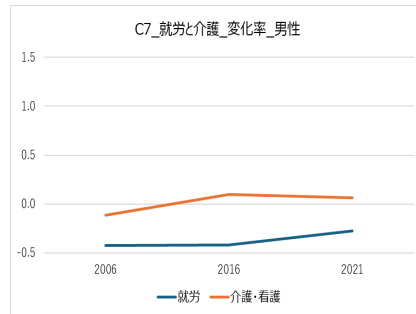
(分)

クラス5
余暇重視型



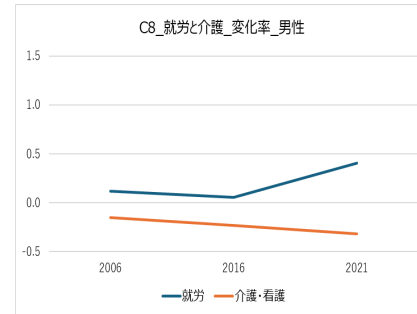
(分)

クラス7
介護中心型



(分)

クラス8
介護過重型



(分)

| C3 | 1996 | 2006 | 2016 | 2021 |
|-------|------|------|------|------|
| 就労 | 427 | 433 | 362 | 416 |
| 介護・看護 | 54 | 44 | 41 | 47 |

| C5 | 1996 | 2006 | 2016 | 2021 |
|-------|------|------|------|------|
| 就労 | 44 | 40 | 40 | 46 |
| 介護・看護 | 41 | 43 | 36 | 39 |

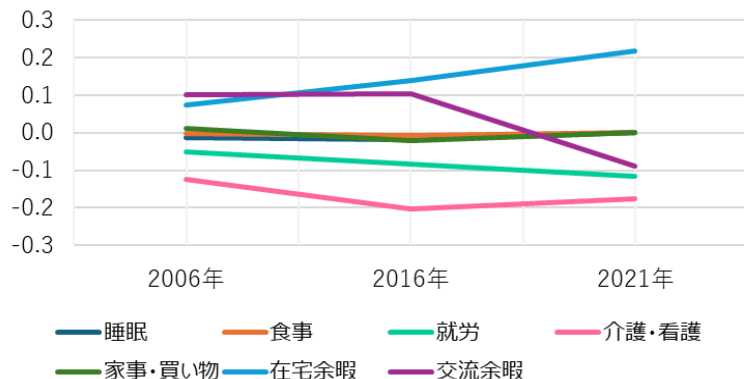
| C7 | 1996 | 2006 | 2016 | 2021 |
|-------|------|------|------|------|
| 就労 | 207 | 119 | 121 | 150 |
| 介護・看護 | 413 | 365 | 453 | 440 |

| C8 | 1996 | 2006 | 2016 | 2021 |
|-------|------|------|------|------|
| 就労 | 225 | 251 | 237 | 316 |
| 介護・看護 | 598 | 508 | 458 | 407 |

就労時間増加

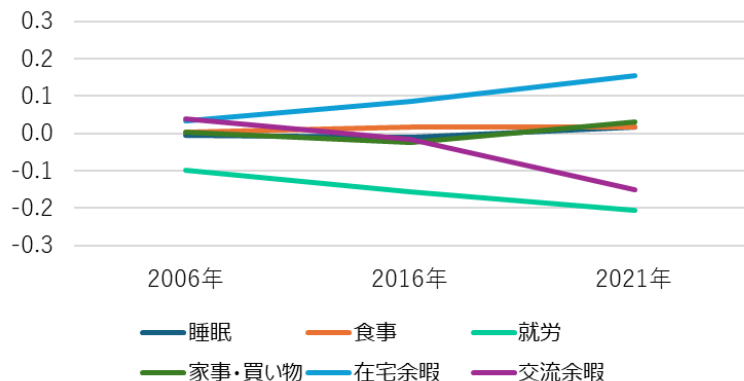
資料 介護者と非介護者の全体の生活時間平均 (1996年を基準年とした変化率)

介護者全体の生活時間平均 (変化率)



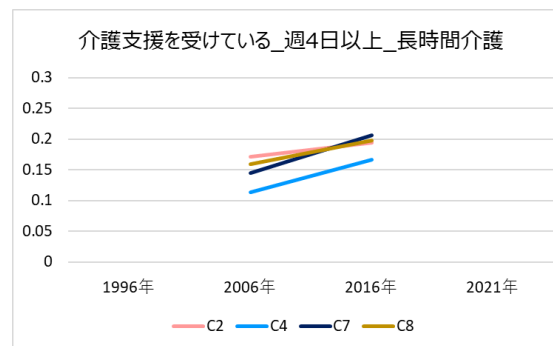
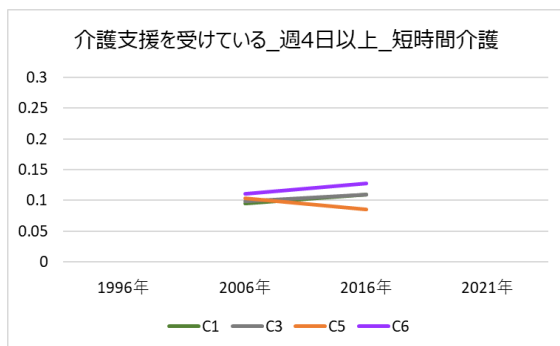
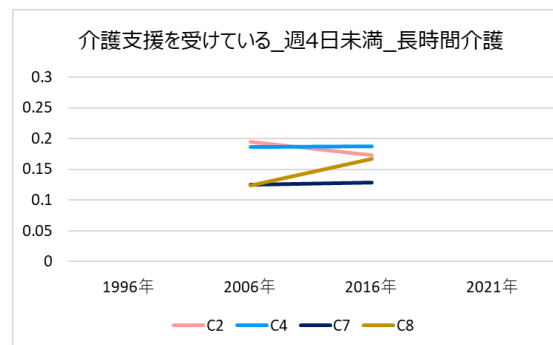
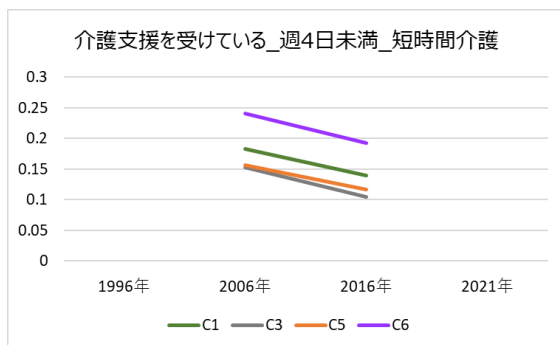
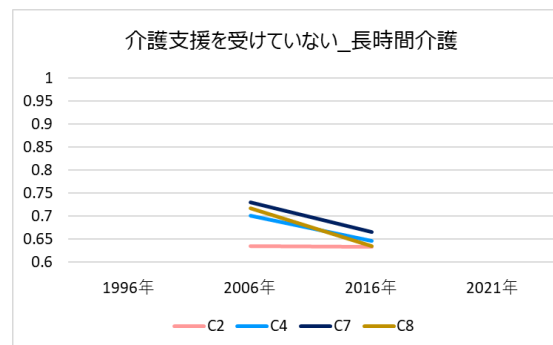
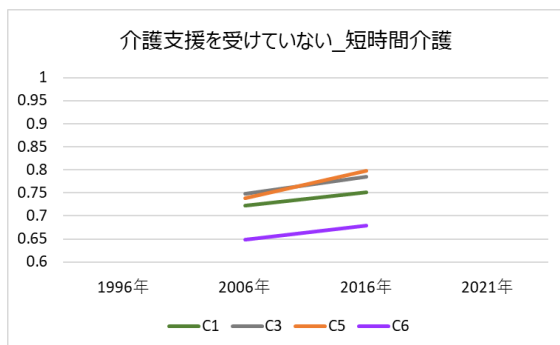
| 対象者数(n) | 9722 | 9080 | 11479 | 8476 |
|---------|-------|-------|-------|-------|
| | (分) | | | |
| 項目 | 1996年 | 2006年 | 2016年 | 2021年 |
| 睡眠 | 455 | 450 | 446 | 456 |
| 食事 | 103 | 103 | 102 | 103 |
| 就労 | 109 | 103 | 100 | 96 |
| 家事・買い物 | 206 | 209 | 202 | 207 |
| 在宅余暇 | 199 | 214 | 227 | 243 |
| 交流余暇 | 62 | 69 | 69 | 57 |
| 介護・看護 | 156 | 137 | 124 | 128 |

非介護者全体の生活時間平均 (変化率)



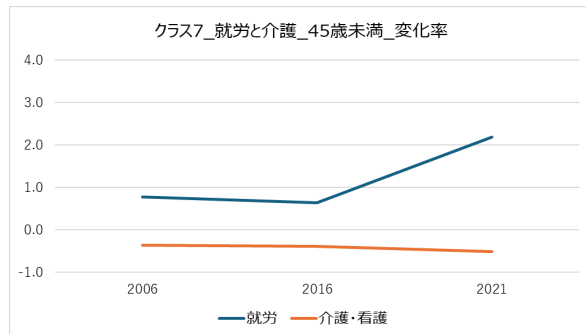
| 対象者数(n) | 392727 | 286088 | 289987 | 279320 |
|---------|--------|--------|--------|--------|
| | (分) | | | |
| 項目 | 1996年 | 2006年 | 2016年 | 2021年 |
| 睡眠 | 474 | 472 | 470 | 482 |
| 食事 | 104 | 104 | 106 | 105 |
| 就労 | 237 | 213 | 200 | 188 |
| 家事・買い物 | 135 | 136 | 132 | 139 |
| 在宅余暇 | 251 | 259 | 273 | 290 |
| 交流余暇 | 96 | 100 | 94 | 82 |
| 介護・看護 | 0 | 0 | 0 | 0 |

資料 介護支援（介護サービス）の利用 介護・看護時間の長さで比較

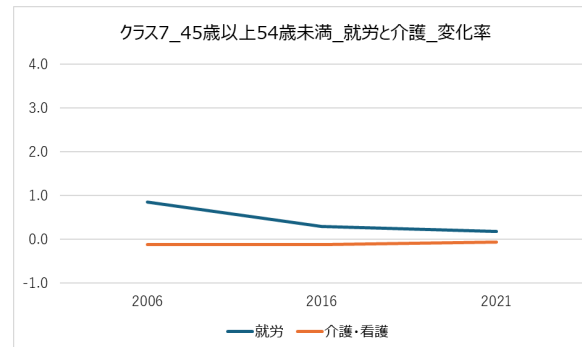


資料 介護中心型（クラス7）の年齢層別 就労・介護時間の推移

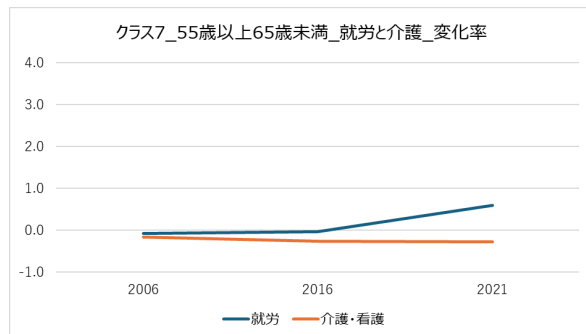
45歳未満



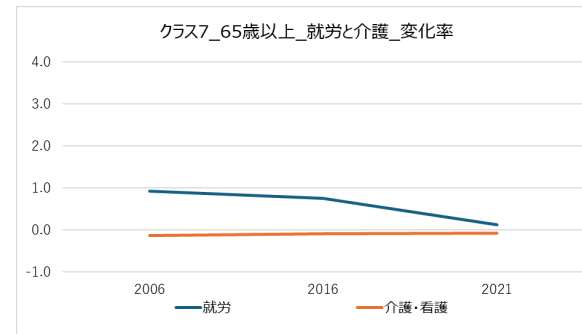
45-54歳



55-64歳

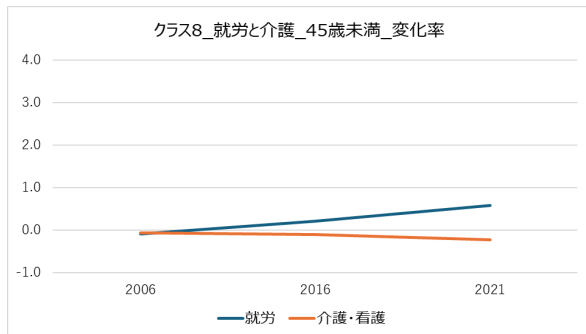


65歳以上

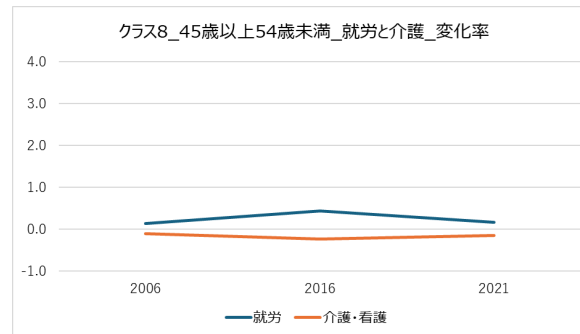


資料 介護過重型（クラス8）年齢層別 就労・介護時間の推移

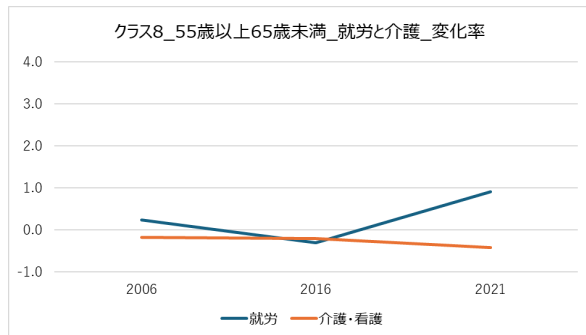
45歳未満



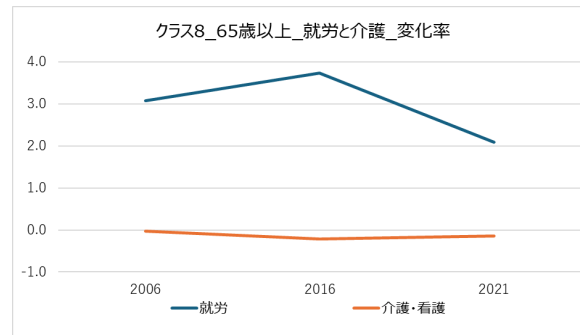
45-54歳



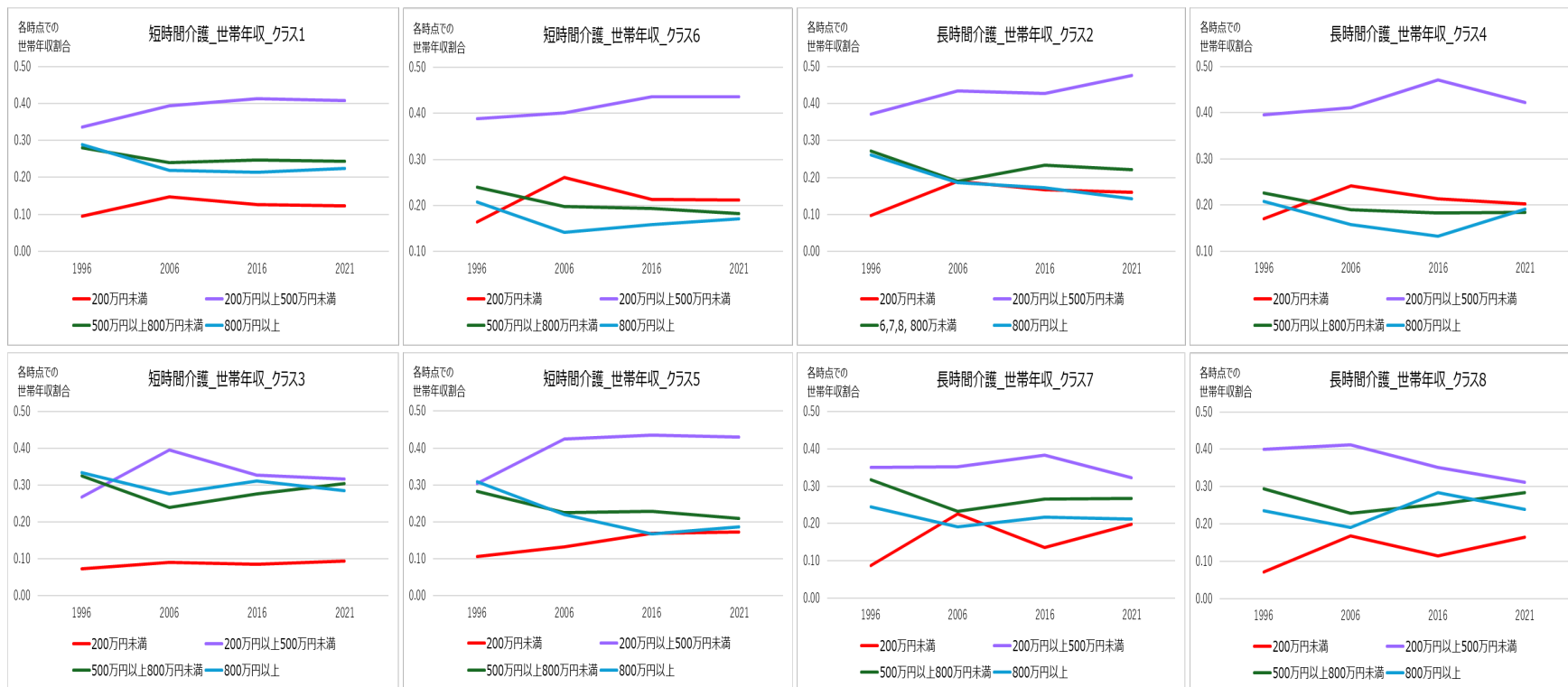
55-64歳



65歳以上



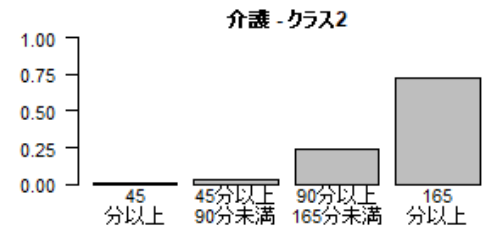
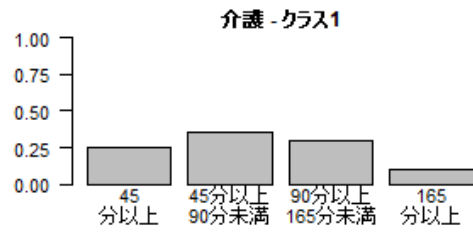
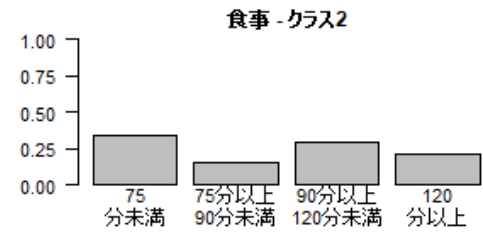
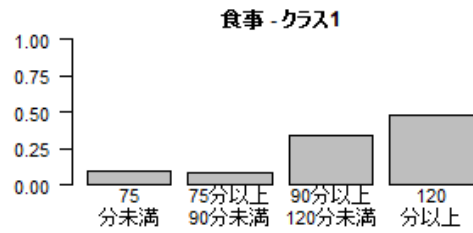
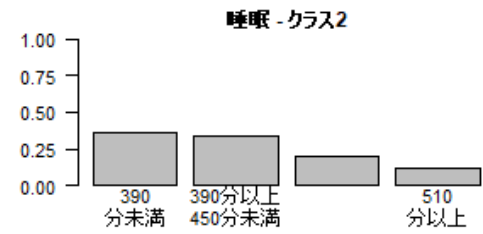
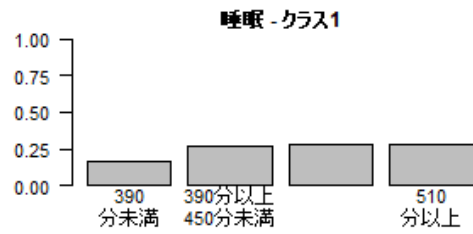
資料 クラス別 世帯年収



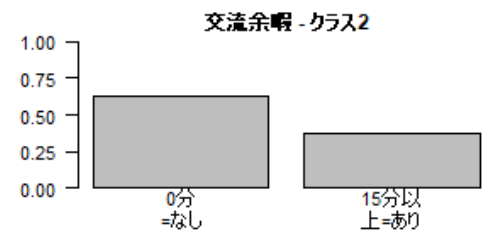
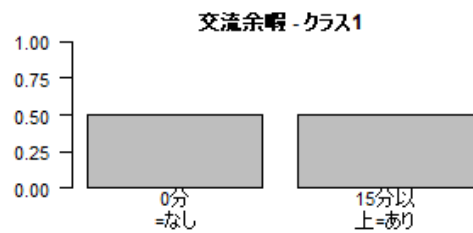
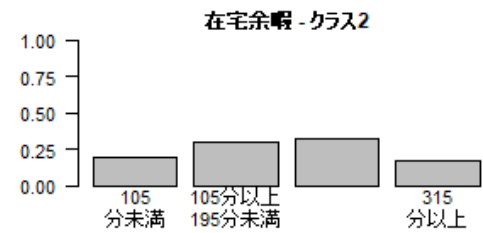
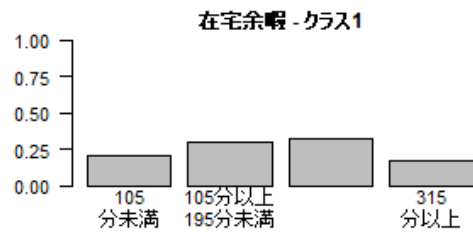
- ・どのクラスも200-500万の年収がある人が多い（2023年の調査では全体の38.1%がこの範囲に入る）。
- ・どのクラスも200万未満の所得者は増加傾向にある。1996年と比較し、増加幅が最も大きいのはクラス7の11%、次いでクラス8の10%。
- ・クラス3,7,8の壮年期である人が一定数いるクラスで、クラス3は高所得者の割合が他のクラスより高く、クラス7,8はばらつきが見られ、高所得者の減少幅が5%以下と小さく、所得格差が見られる。
- ・クラス5は高所得者の減少幅が最も大きい。
- ・高齢期にある人が多いクラス4,5,6において、クラス4と6は就労時間が減少しているため、200万未満は20%を超えている。
- ・クラス1,2は半数が中年期に当たる人が多いクラスだが、就労時間は減少しているクラスでもあり、年収としては低くなる

各クラスの条件付き応答確率

条件付き応答確率

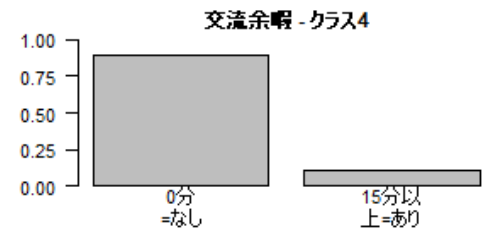
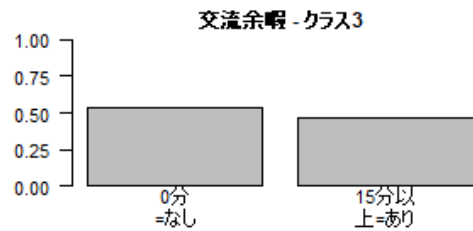
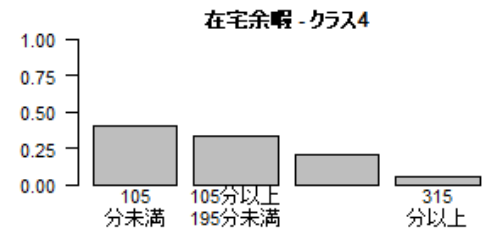
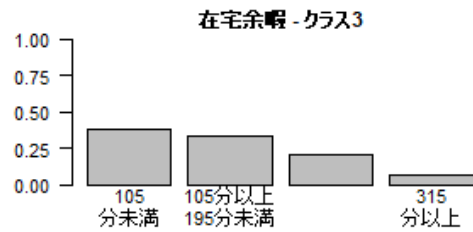
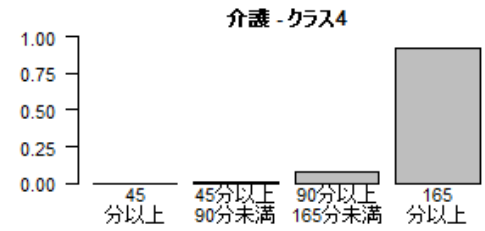
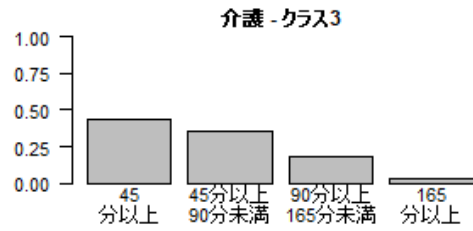
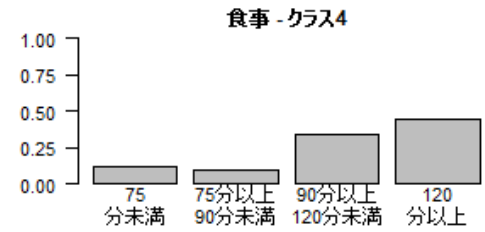
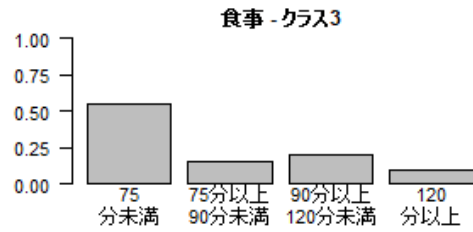
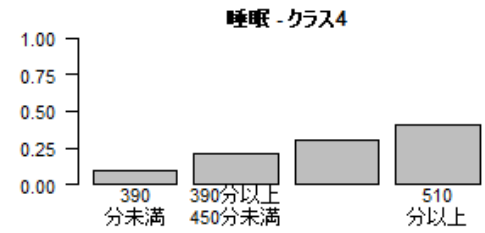
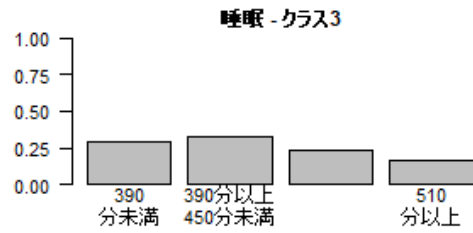


条件付き応答確率



各クラスの条件付き応答確率

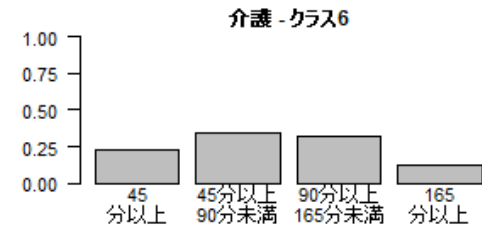
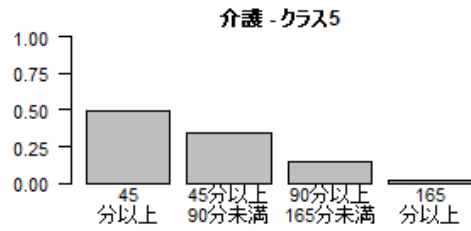
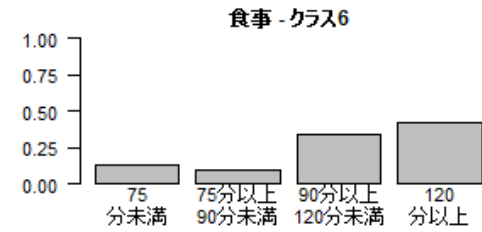
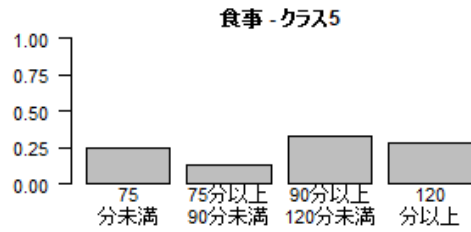
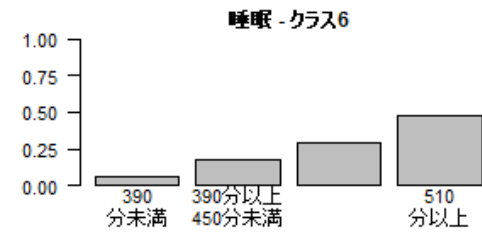
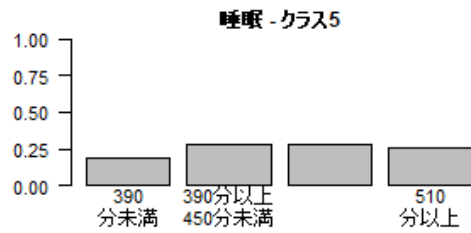
条件付き応答確率



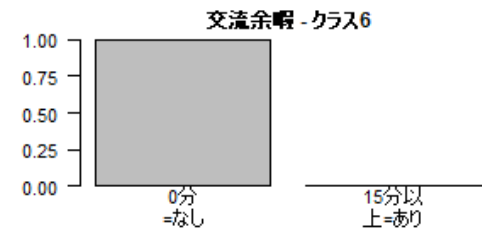
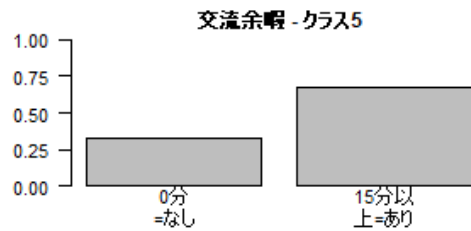
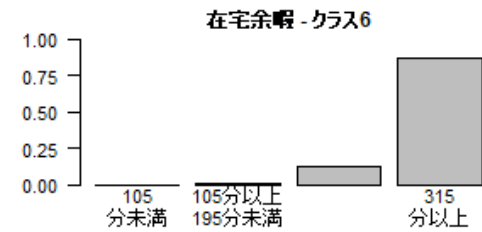
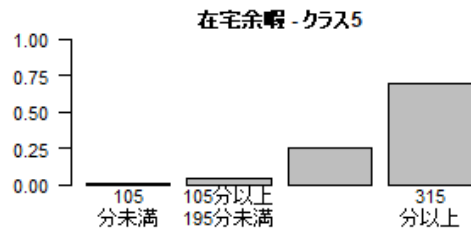
条件付き応答確率

各クラスの条件付き応答確率

条件付き応答確率

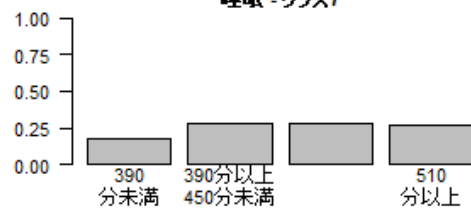


条件付き応答確率

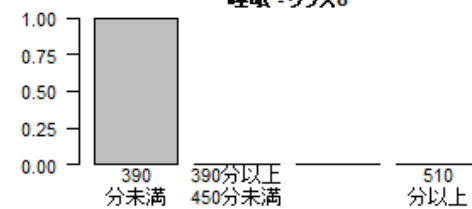


各クラスの条件付き応答確率

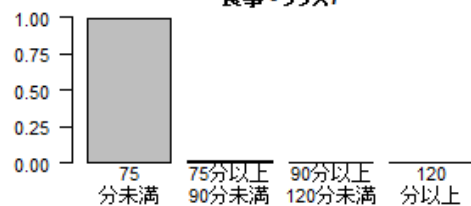
睡眠 - クラス7



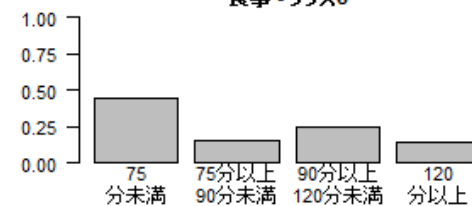
睡眠 - クラス8



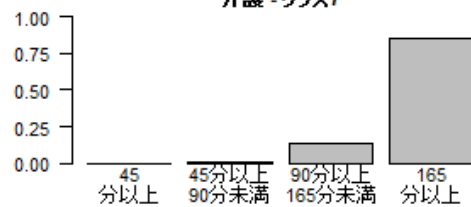
食事 - クラス7



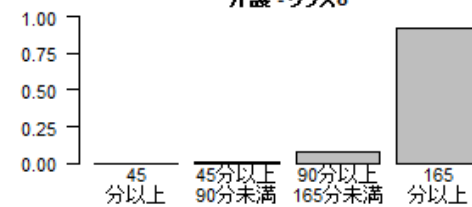
食事 - クラス8



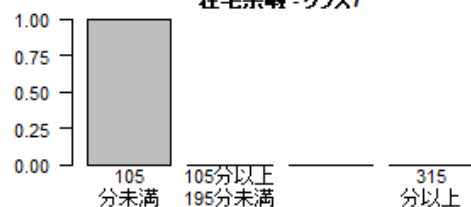
介護 - クラス7



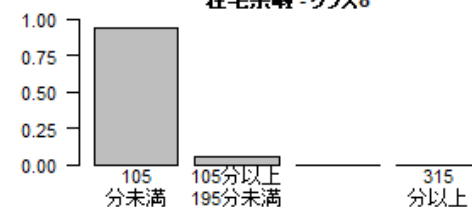
介護 - クラス8



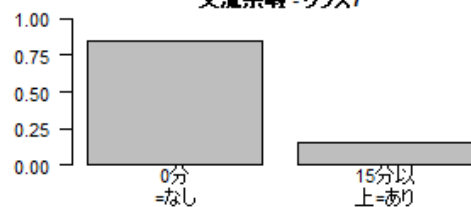
在宅余暇 - クラス7



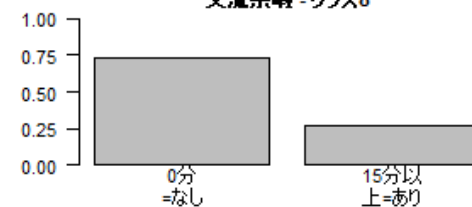
在宅余暇 - クラス8



交流余暇 - クラス7



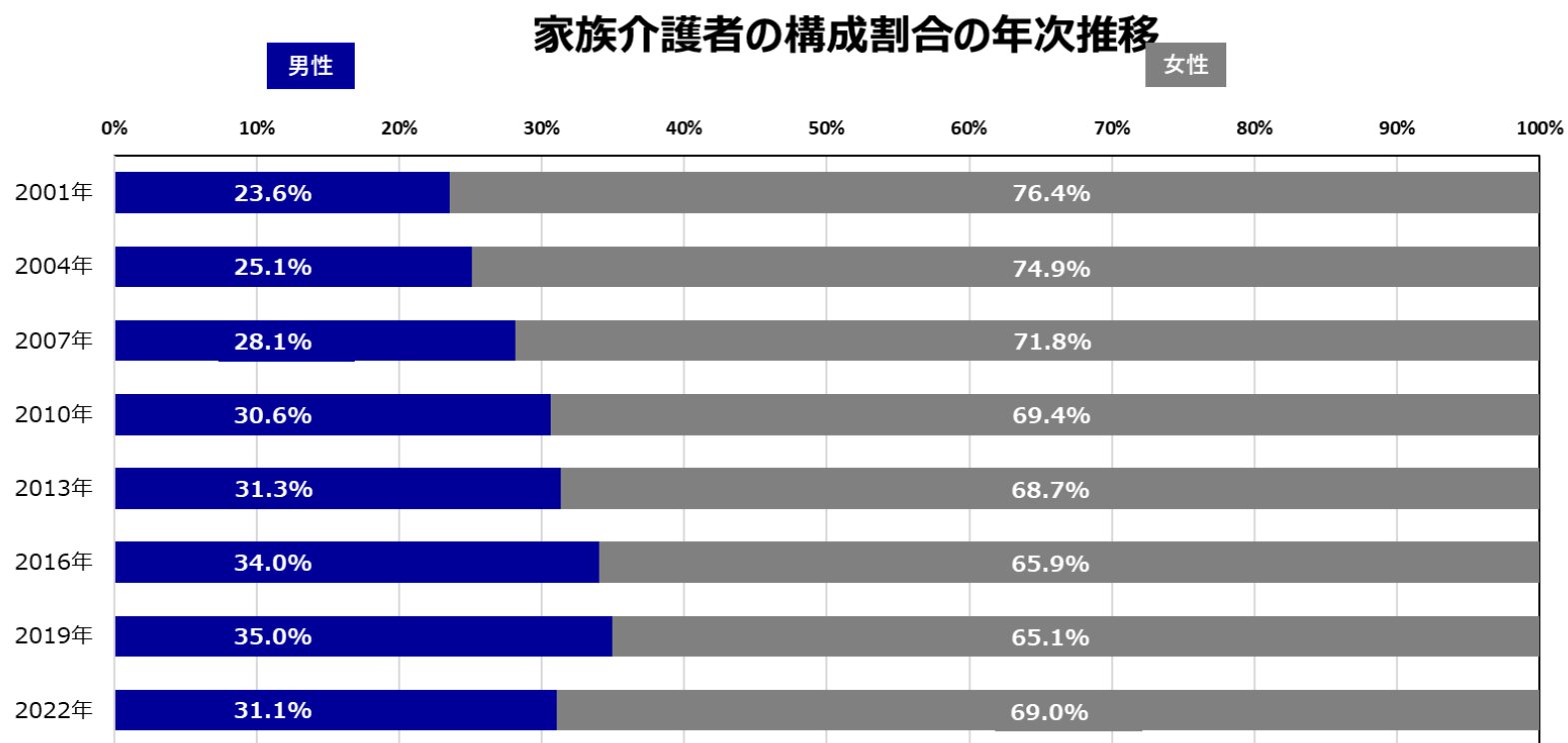
交流余暇 - クラス8



条件付き応答確率

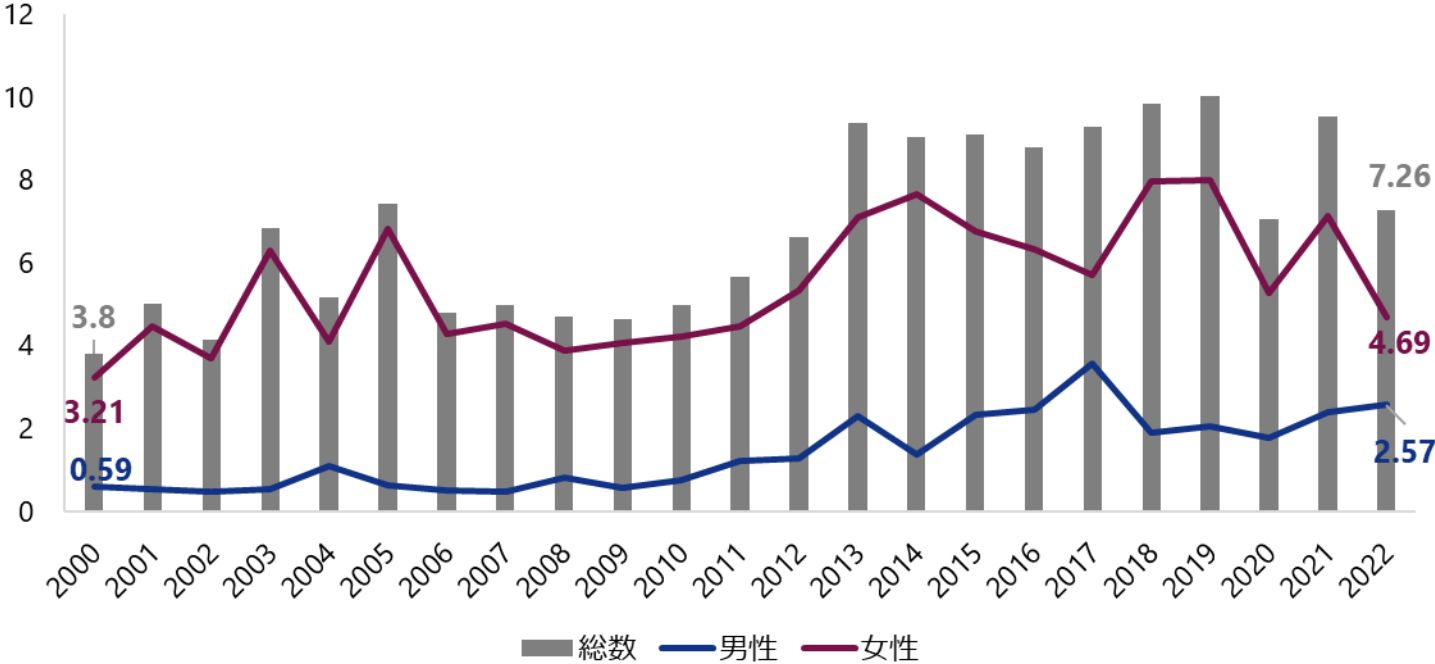
条件付き応答確率

同居する家族介護者の年次推移



介護離職者の推移

介護を理由に離職した人の推移 (単位：万人)



孤独と孤立

孤独

主観的概念であり、「寂しい」という**感情**を指す。

孤立

客観的概念であり、他者とのつながりや助けのない、または少ない**状態**を指す。

社会的孤立の定義

- 日本では、社会的孤立の明確な定義はない。

孤立については英国の社会学者のピーター・タウンゼントによる「家族やコミュニティとほとんど接触がない」との定義が、国内でよく用いられている。

藤森克彦, 杉山京, 中年未婚者の社会的孤立の実態とその特徴, 2021
宮寺良光, 被保護高齢者世帯の生活困窮化要因分析を踏まえたナショナル・ミニマムの検討, 社会政策学会誌, 2022

- 社会的孤立とは、
 - ・家族や地域社会との交流が、客観的にみて著しく乏しい状態。
 - ・家族と同居していても、家族との日常的な交流がないうえに外部の近隣・友人とも接触が乏しい。

平成22年高齢者白書, 内閣府

生活時間からみた社会的孤立のリスクとは、

「人と交流がある余暇活動時間が少ない」ことが挙げられる。

食事時間からも家族との時間があるかどうか分かる。

食事時間が短いことは、「家族との団らんの時間」としての位置づけにない。

人と交流がある余暇活動とは、

- ・社会交流（自宅外での家族、その他の人との交流、交際・付き合い）
- ・社会参加（ボランティア活動、スポーツ、趣味等を通して、人と交流する活動への参加）

社会生活基本調査 行動の種類

| 行動の種類の内容例示 | | |
|------------|---|--|
| 行動の種類 | 内容例示 | 備考 |
| 1 睡眠 | 夜間の睡眠 昼寝 仮眠 ベットで眠りに落ちるのを待つ | <ul style="list-style-type: none"> 就寝から起床までの時間を記入する。 うたたねは「13 休養・くつろぎ」とする。 |
| 2 身の回りの用事 | 洗顔 入浴 トイレ 身じたく 着替え 化粧 整髪 ひげそり 理美容室でのパーマ・カット エステ 巡回入浴サービスを利用した入浴 | <ul style="list-style-type: none"> 自分のための用事をいう。 炊事、掃除、洗濯は「7 家事」とする。 介護サービスなどを利用して行う場合もここに含める。 |
| 3 食事 | 家庭での食事・飲食 外食店などでの食事・飲食 学校給食 仕事場での食事・飲食 | <ul style="list-style-type: none"> 交際のための食事・飲食は「18 交際・つきあい」とする。 間食（おやつ）は「13 休養・くつろぎ」とする。 |
| 4 通勤・通学 | 自宅と仕事場の行き帰り 自宅と学校（各種学校・専修学校を含む）との行き帰り | <ul style="list-style-type: none"> 途中で寄り道をした場合も、ふだんの経路を大きくはずれない場合の移動の時間はここに含める。 |
| 5 仕事 | 通常の仕事 仕事の準備・後片付け 残業 自宅に持ち帰ってする仕事 アルバイト 内職 自家営業の手伝い 仕事中の移動 | <ul style="list-style-type: none"> 本人または自家の収入を伴う仕事をいう。 休憩時間などのため仕事をしない時間は除く。 出張先への行き帰りの移動は「11 移動」とする。 |
| 6 学業 | 学校（小学・中学・高校・高専・短大・大学・大学院・予備校など）の授業や予習・復習・宿題 校内清掃 ホームルーム 家庭教師に習う 学園祭の準備 | <ul style="list-style-type: none"> 必修科目として行うものでないクラブ活動・部活動はその内容により「15 趣味・娯楽」、または「16 スポーツ」などとする。 学習塾での勉強はここに含める。 |
| 7 家事 | 炊事 食事の後片付け 掃除 ゴミ捨て 洗濯 アイロンかけ つくろいもの ふとん干し 衣類の整理片付け 家族の身の回りの世話 家計簿の記入 株価のチェック・株式の売買 庭の草とり 銀行・市役所などの用事 車の手入れ 家具の修繕 | <ul style="list-style-type: none"> 通勤・通学者などの送迎はここに含める。 自家消費用の作物の栽培などもここに含める。ただし、趣味として行っている場合は「15 趣味・娯楽」とする。 インターネットによる株価のチェック・株式の売買もここに含める。 |
| 8 介護・看護 | 家族・他の世帯にいる親族に対する日常生活における入浴・トイレ・移動・食事などの手助け 看病 | <ul style="list-style-type: none"> 一時的な病気などで寝ている家族に対する介護・看護もここに含める。 家族以外の人に対する無報酬の介護・看護は「17 ボランティア活動・社会参加活動」とする。 |
| 9 育児 | 乳幼児の世話 子供のつきそい 子供の勉強の相手 子供の遊びの相手 乳幼児の送迎 保護者会に出席 | <ul style="list-style-type: none"> 子供の教育に関する行動を含む。 就学後の子供の身の回りの世話は「7 家事」とする。 |
| 10 買い物 | 食料品・日用品・電化製品・レジャー用品など各種の買い物 DVDのレンタル | <ul style="list-style-type: none"> ウィンドーショッピング、インターネットによる買い物も含む。 |

社会生活基本調査 行動の種類

| | | |
|-------------------------|---|---|
| 11 移動 (通勤・通学を除く) | 電車やバスに乗っている時間・待ち時間・乗換え時間 自動車に乗っている時間 歩いている時間 | ・「4 通勤・通学」以外の移動で、出発地から目的地までの時間をいう。 |
| 12 テレビ・ラジオ・ 新聞・雑誌 | テレビ・ラジオの視聴 新聞・雑誌の講読 テレビから 録画した番組を見る インターネットでニュースを読む | ・テレビ(録画を含む)・ラジオ(録音を含む)・新聞・雑誌による学習は「14 学習・自己啓発・訓練(学業以外)」とする。 ・購入・レンタルなどによるDVDの視聴は「14 学習・自己啓発・訓練(学業以外)」または「15 趣味・娯楽」などとする。 |
| 13 休養・くつろぎ | 家族との団らん 仕事場または学校の休憩時間 おやつ・ お茶の時間 食休み うたたね 家族の見舞い | ・テレビ・ラジオなどを視聴しながらくつろいだ時間は「12 テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」とする。 |
| 14 学習・自己啓発・ 訓練(学業以外) | 学級・講座・教室 社会通信教育 テレビ・ラジオによる 学習 クラブ活動・部活動で行うパソコン学習など 自動車教習 | ・個人の自由時間に行う学習をいう。 ・職場で命ぜられて受けた研修は「5 仕事」とする。 ・学校の宿題の「自由研究」は「6 学業」とする。 |
| 15 趣味・娯楽 | 映画・美術・スポーツなどの観覧・鑑賞 観光地の見物 ドライブ ペットの世話 ゲーム機で遊ぶ 趣味としての 読書 マンガを読む クラブ活動・部活動での楽器の演奏 | ・菓子作り・園芸・日曜大工など、趣味として行っている場合はここに 含める。 |
| 16 スポーツ | 各種競技会 全身運動を伴う遊び 家庭での美容体操 クラブ活動・部活動で行う野球など(学生が授業などで 行うスポーツを除く) つり | ・運動としての散歩を含む。ただし、特別の目的がある移動(職場に歩 いて行く)は含めない。 |
| 17 ボランティア活動 ・社会参加活動 | (ボランティア活動) 道路や公園の清掃 施設の慰問 点訳 手話 災害地など への援護物資の調達 献血 高齢者の日常生活の手助け 民生委員 子供会の世話 美術館ガイド リサイクル運動 交通安全運動 スポーツ大会の運営 (社会参加活動) 労働運動 政治活動 布教活動 選挙の投票 | ・自分の所属する町内会・PTA・同業者団体のために行う世話はここに 含める。 ・自分の所属する地域・団体で行うバザー、お祭り、運動会などへの 単なる参加は「10 買い物」、「15 趣味・娯楽」、 「16 スポーツ」などとする。 |
| 18 交際・つきあい | 知人と飲食 冠婚葬祭 同窓会への出席・準備 あいさつ 回り 友人の見舞い 友達との電話・会話 友達との メール・SNSでのやり取り 手紙を書く | ・交際のための趣味・娯楽、スポーツはそれぞれ「15 趣味・娯楽」、 「16 スポーツ」とする。 |
| 19 受診・療養 | 病院での受診・治療 自宅での療養 | |
| 20 その他 | 求職活動 墓参り 仏壇を拜む 調査票を記入する | |

19 世帯の家族類型

世帯をその構成により、次のように区分した。

- 1 ● ・夫婦のみの世帯
- 2 ● ・夫婦と子供の世帯
- 3 ● ・夫婦と両親の世帯
 - ・夫婦と夫の両親の世帯
 - ・夫婦と妻の両親の世帯
- ・夫婦とひとり親の世帯
 - ・夫婦と夫のひとり親の世帯
 - ・夫婦と夫の男親の世帯
 - ・夫婦と夫の女親の世帯
 - ・夫婦と妻のひとり親の世帯
 - ・夫婦と妻の男親の世帯
 - ・夫婦と妻の女親の世帯
- 4 ● ・夫婦、子供と両親の世帯
 - ・夫婦、子供と夫の両親の世帯
 - ・夫婦、子供と妻の両親の世帯
- ・夫婦、子供とひとり親の世帯
 - ・夫婦、子供と夫のひとり親の世帯
 - ・夫婦、子供と夫の男親の世帯
 - ・夫婦、子供と夫の女親の世帯
 - ・夫婦、子供と妻のひとり親の世帯
 - ・夫婦、子供と妻の男親の世帯
 - ・夫婦、子供と妻の女親の世帯
- 5 ● ・高齢者夫婦世帯……夫婦のみの世帯のうち、夫が65歳以上、妻が60歳以上の世帯。
- 6 ● ・母子世帯……有配偶でない母と20歳未満の未婚の子供から成る世帯。
- ・父子世帯……有配偶でない父と20歳未満の未婚の子供から成る世帯。
- 7 ● ・単身世帯……一人の世帯。

なお、この「世帯の家族類型」での夫婦とは、世帯内で最も若い世代の夫婦のことをいう。世帯内に2組以上の夫婦がいる場合の夫・妻とは、この夫婦に該当するものをいい、親、子供(未婚の子に限る。)とは、この夫婦からみた続き柄としての親又は子供をいう。

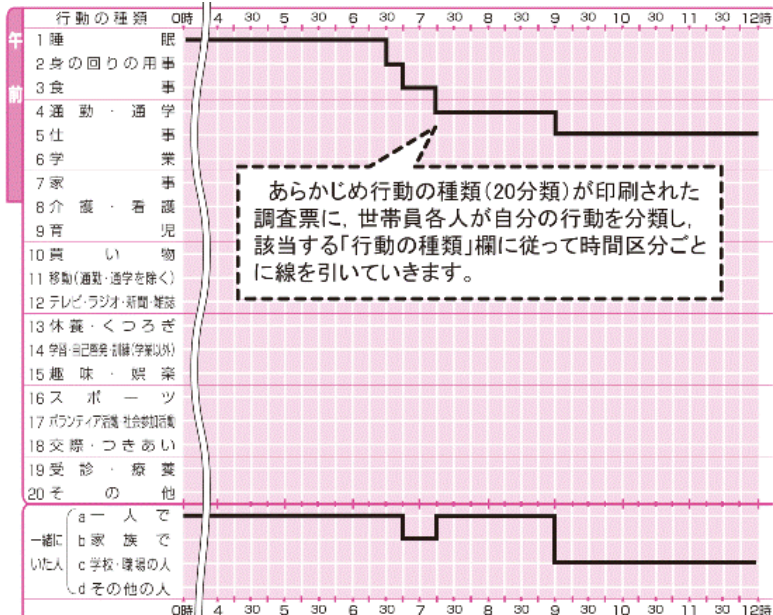
17 ライフステージ

本人の年齢や在学の状態、配偶者や子供と同居か否かなどにより、次のように区分した。

- ・教育を受けている時期
 - 子供、配偶者のいない在学中の者(30歳未満)。在学中の学校により細分した。
 - ・小学生
 - ・中学生
 - ・高校生
 - ・その他の在学者
- ・独身期
 - 子供、配偶者のいない者。年齢により細分した。
 - ・35歳未満
 - ・35～44歳
 - ・45～64歳
 - ・65歳以上
- ・子供のいない夫・妻
 - 子供はいないが配偶者がいる者。年齢により細分した。
 - ・35歳未満
 - ・35～44歳
 - ・45～64歳
 - ・65歳以上
- ・子育て期の夫・妻
 - 配偶者と30歳未満の無業の子供がいる者。末子の就学状況により細分した。
 - ・末子が就学前
 - ・末子が小学生
 - ・末子が中学生
 - ・末子が高校生
 - ・末子がその他
- ・子育て期のひとり親
 - 30歳未満の無業の子供がおり、配偶者がいない者。末子の就学状況により細分した。
 - ・末子が就学前
 - ・末子がその他
- ・子供(無業の30歳未満の子供以外)と同居の夫・妻
 - 30歳未満の無業の子供はいないが、その他の子供がおり、配偶者がいる者。
- ・子供(無業の30歳未満の子供以外)と同居のひとり親
 - 30歳未満の無業の子供はいないが、その他の子供がおり、配偶者がいない者。

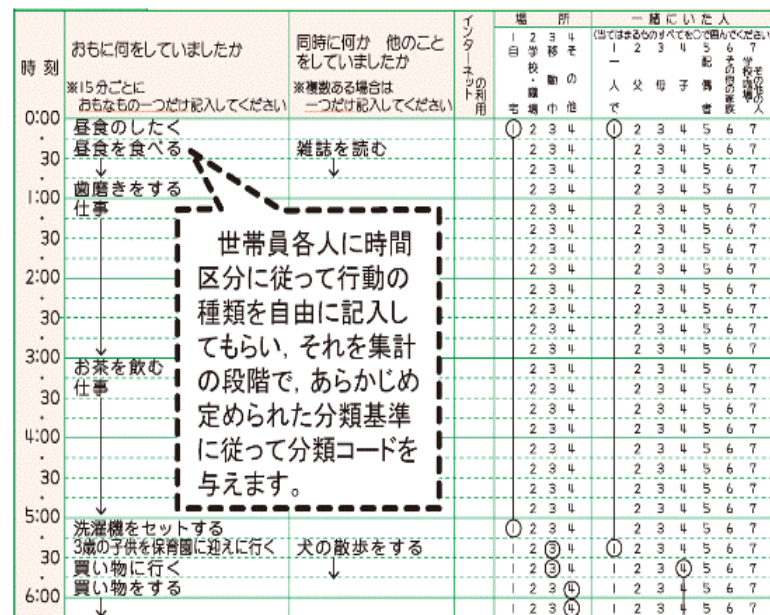
なお、本人の「子供」及び「配偶者」の有無は、本人と同一世帯内にいるか否かによる。また、「子供」には実子のほか、子の配偶者や配偶者の子を含む。

社会生活基本調査 調査票A・調査票B



調査票A プリコード方式

- 生活時間配分を把握する調査について、昭和51年の調査開始以来、採用している方式。
- 過去の調査結果との時系列比較が可能。



調査票B アフターコード方式

- 日記をつけるように自由に回答を記入してもらい、集計の段階で、分類基準に従って分類コードを与える方式。
- 平成13年の調査から導入された。
- 諸外国の生活時間調査の多くに採用され国際比較が可能。

介護保険サービスを利用できる施設一覧

| 種類 | 詳細 | |
|--|-------------------------|--|
| 介護保険施設 | 介護老人保健施設（老健） | 在宅復帰と在宅療養支援を行うための施設。 原則65歳以上で「要介護1」以上の介護認定を受けている人が対象。 |
| | 介護老人福祉施設 （特別養護老人ホーム） | 24時間の介護サービスの提供を目的とした施設。 入居条件は要介護3以上で、看取りに対応。 |
| | 介護療養型医療施設 | 長期療養を必要とする比較的重度の要介護者に対し、介護や必要な医療を提供する施設です。 2023年度に廃止。 |
| | 介護医療院 | 要介護者の長期療養と生活支援を目的とした施設。 入居条件は65歳以上の「要介護1」以上の介護認定を受けている人。 2023年の介護療養型医療施設の廃止に代わって2018年にスタート。 |
| 特定施設入居者生活介護 （都道府県が定めている「運営基準」「人員配置基準」「設備基準」を満たす必要がある） | 介護付き有料老人ホーム | 特定施設入居者生活介護の指定を受けた施設で、充実した介護体制が整っている。 |
| | 住宅型有料老人ホーム | 生活支援等のサービスがついた高齢者向けの老人ホーム。基本的に、自立～軽度の要介護の60歳以上の人を対象。 |
| | サービス付き高齢者向け住宅 | 生活の自由度が高く、自立の方や要支援、要介護度が比較的低い人が多く入居。困りごとの相談ができる生活相談サービスや定期的に施設内を巡回する見守りサービスが受けられ、一人暮らしの人が安心して入居できる。 |
| | 軽費老人ホーム（ケアハウス） | A型、B型、ケアハウスの3種類がある。A型は、高齢等のため独立して生活するには不安があり、家族による援助を受けることが困難な人が対象。B型は、A型の要件に加えて、自炊が可能な人が対象。ケアハウスは、身体機能の低下により自立した日常生活を営むことに不安がある方であって、家族による援助を受けることが困難な人が対象。 |
| 地域密着型 | 認知症対応型共同生活介護（グループホーム） | 介護が必要になった状態でも、できる限り住み慣れた地域で生活を続けられるよう支援するサービス。 利用できるサービスは原則として、住民票のある地域のサービスに限定。 |

介護サービスとは

ご利用できる主な介護サービスについて（詳しくは、お住まいの市区町村や地域包括支援センターにお問い合わせください）

| | | | | | |
|------------------------------|---------------------------|--|----------------------|---------------------------|--|
| 自宅で 利用する サービス | 訪問介護 | 訪問介護員（ホームヘルパー）が入浴、排せつ、食事などの介護や調理、洗濯、掃除等の家事を行うサービスです。 | 宿泊する サービス | 短期入所 生活介護 (ショートステイ) | 施設などに短期間宿泊して、食事や入浴などの支援や、心身の機能を維持・向上するための機能訓練の支援などを行うサービスです。家族の介護負担軽減を図ることができます。 |
| | 訪問看護 | 自宅で療養生活が送れるよう、看護師が医師の指示のもとで、健康チェック、療養上の世話などを行うサービスです。 | | 居住系 サービス | 特定施設入居者 生活介護 |
| | 福祉用具 貸与 | 日常生活や介護に役立つ福祉用具（車いす、ベッドなど）のレンタルができるサービスです。 | 施設系 サービス | 特別養護老人 ホーム | 常に介護が必要で、自宅では介護が困難な方が入所します。食事、入浴、排せつなどの介護を一体的に提供します。（※原則要介護3以上の方が対象） |
| 日帰りで 施設等を 利用する サービス | 通所介護 (デイサービス) | 食事や入浴などの支援や、心身の機能を維持・向上するための機能訓練、口腔機能向上サービスなどを日帰りで提供します。 | 小規模多機能型 居宅介護 | | 利用者の選択に応じて、施設への「通い」を中心に、短期間の「宿泊」や利用者の自宅への「訪問」を組み合わせる日常生活上の支援や機能訓練を行うサービスです。 |
| | 通所リハビリ テーション (デイケア) | 施設や病院などにおいて、日常生活の自立を助けるために理学療法士、作業療法士などがリハビリテーションを行い、利用者の心身機能の維持回復を図るサービスです。 | 定期巡回・随時対応型 訪問介護看護 | | 定期的な巡回や随時通報への対応など、利用者の心身の状況に応じて、24時間365日必要なサービスを必要なタイミングで柔軟に提供するサービスです。訪問介護員だけでなく看護師なども連携しているため、介護と看護の一体的なサービス提供を受けることもできます。 |

介護保険制度について、厚生労働省, https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/2gou_leaflet.pdf

介護度とは

介護度とは、要介護認定、要支援認定で判定される介護の必要性の程度



引用元：公益財団法人長寿科学振興財団, 健康長寿ネット,
<https://www.tyojyu.or.jp/net/index.html>

要介護区分：介護保険制度では、寝たきりや認知症等で常時介護を必要とする状態（要介護状態）になった場合や、家事や身支度等の日常生活に支援が必要であり、特に介護予防サービスが効果的な状態（要支援状態）になった場合に、介護の必要度合いに応じた介護サービスを受けることができる。

要支援： 要支援1と要支援2があり、身体・精神障害により、6か月にわたり、継続して日常生活の一部に支障がある状態
要介護： 要介護1、2、3、4、5の5段階あり、身体・精神障害により、6か月にわたり、日常生活動作の一部または全面に介助を必要としている状態

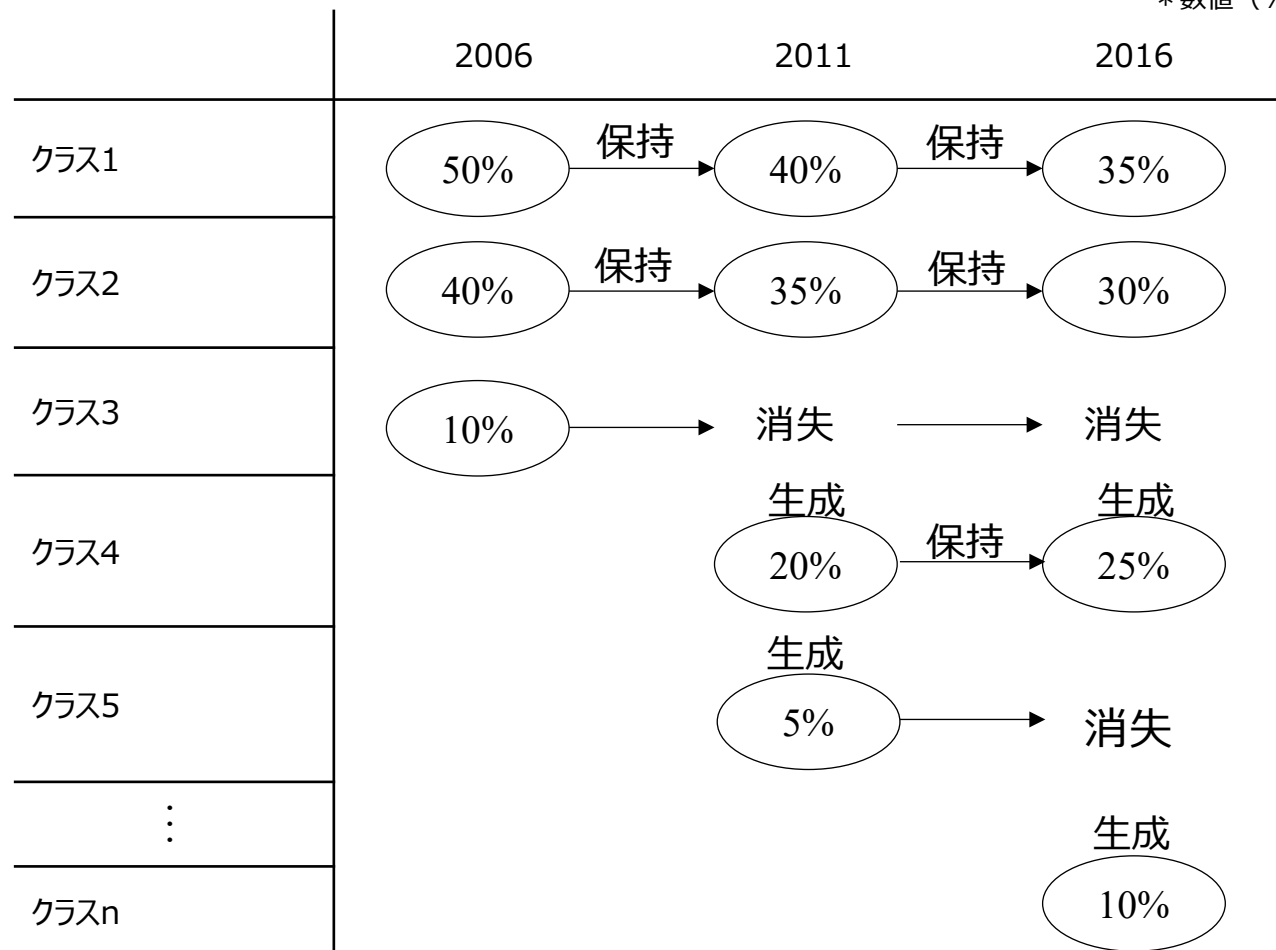
特定疾病とは

※ 特定疾病とは

| | |
|-------------------------------------|------------------------------------|
| 1 がん（末期） | 9 脊柱管狭窄症 |
| 2 関節リウマチ | 10 早老症 |
| 3 筋萎縮性側索硬化症 | 11 多系統萎縮症 |
| 4 後縦靭帯骨化症 | 12 糖尿病性神経障害、糖尿病性腎症および 糖尿病性網膜症 |
| 5 骨折を伴う骨粗鬆症 | 13 脳血管疾患 |
| 6 初老期における認知症 | 14 閉塞性動脈硬化症 |
| 7 進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性 症およびパーキンソン病 | 15 慢性閉塞性肺疾患 |
| 8 脊髄小脳変性症 | 16 両側の膝関節または股関節に著しい変形 を伴う変形性関節症 |

【参考資料】潜在クラス分析の段階推定法とは

* 数値 (%) は各クラスの構成比を表す。



段階推定法とは、
 反復横断データを用いて、潜在クラス分析による類型化によってできた潜在クラスを各時点ごとに追跡する、潜在クラスの推移をみる手法。